

医学教育分野別評価
千葉大学医学部医学科
年次報告書
2026（令和 8）年度

評価受審年度 2020（令和 2）年

令和 8 年 8 月

千葉大学医学部



begin.continue
千葉大学大学院医学研究科・医学部

医学教育分野別評価 千葉大学医学部医学科 年次報告書

2026(令和 8)年度

医学教育分野別評価の受審 2020(令和 2)年度

受審時の医学教育分野評価基準日本版 Ver.2.32

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36

はじめに

本学医学部医学科は、2020 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2021 年 10 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。評価結果のうち、特に部分的適合と評価された項目を中心に、次の受審までに改善に努める予定である。今回、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 を踏まえ、2026 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2025 年 4 月～2026 年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

- ・ 医学生の学修成果（アウトカム）2022 年度改訂版を本学の学生、教職員のみならず、他学部、病院関係者、パブリックコメントを参考にして作成し、2024 年度入学生から適用している。
- ・ 2023 年度に自己点検・評価委員会によるカリキュラム等の教育評価（内部質保証）の実施体制及び工程を確立し、以後、計画的に教育評価を行っている。

1. 1 使命

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ 千葉大学憲章、医学部のミッション、教育目標が明示され、これらを医学部の使命としている。

改善のための助言

- ・ 使命としている千葉大学憲章、医学部のミッション、教育目標、それぞれの関係性を整理し、明示すべきである。
- ・ 使命を学生、教員など教育の主要な関係者に周知すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・千葉大学憲章および千葉大学行動規範（理念と目標）、医学部のミッション、医学部学生の学修成果（アウトカム）を千葉大学や千葉大学医学部のホームページに掲載している。医学部学生の学修成果（アウトカム）について、医学教育リトリートなどの機会です学生および教員に周知するとともに、毎年のアウトカム達成度自己評価の機会を通して全学年の学生に周知を継続している。

【今後の計画】

- ・千葉大学医学部のホームページに掲載されている千葉大学憲章および千葉大学行動規範（理念と目標）、医学部のミッション、医学部学生の学習成果（アウトカム）について、医学教育リトリートなどの機会です学生および教員に周知するとともに、全学年の学生への毎年の周知を継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料B1.1-1 千葉大学医学部の使命とアウトカム（千葉大学医学部HP）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/>

資料B1.1-2 千葉大学医学部の使命とアウトカム（2023年度以前入学者）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/application/files/3916/5631/7695/c8f3cbc9f2062fae3d5ea387b4a95a63.pdf>

資料B1.1-3 千葉大学医学部の使命とアウトカム（2024年度以降入学者）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/application/files/7717/0805/9033/2022.pdf>

資料B1.1-4 教育目標（千葉大学医学部HP）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/goal/>

資料B1.1-5 千葉大学憲章、千葉大学行動規範（理念と目標）（千葉大学医学部HP）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/outline/>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・千葉大学および医学部の使命として、質の高い医学研究への志向が示されている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・医学研究の達成や国際的健康、医療の観点も含む医学部学生の学修成果（アウトカム）2022 年度改訂版を 2024 年度以後の新入生に適用している。

【今後の計画】

- ・今後も、医学研究の達成や国際的健康、医療の観点もふまえて、適宜医学部学生の学修成果（アウトカム）等の改訂を行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料B1.1-1 千葉大学医学部の使命とアウトカム（千葉大学医学部HP）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/>

資料B1.1-3 千葉大学医学部の使命とアウトカム（2024年度以降入学者）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/application/files/7717/0805/9033/2022.pdf>

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・学部学務委員会のもと、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会が自律性をもって教育施策を構築し、実施している。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・学部学務委員会及び基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会、教育担当副学部長が自律性をもって教育施策を構築して実施し、教員と学生を交えたカリキュラム評価および改善を継続している。
- ・2023 年度に自己点検・評価委員会によるカリキュラム等の教育評価（内部質保証）の実施体制及び工程を確立し、以後、計画的に教育評価を行っている。実施体制として、医学教育分野別評価基準の項目ごとに担当する委員会・部会等を定めている。

【今後の計画】

- ・今後も学部学務委員会及び基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会、教育担当副学部長が自律性をもって教育施策を構築し実施する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B1.2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2025 年 4 月 1 日現在）

資料 B1.2-2 役職員一覧（大学院医学研究院・大学院医学薬学府・医学部概要 2025・

2026))

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・ 現行のカリキュラムや教育科目の実施において教員および学生の自由が保障されている。
- ・ 学部学務委員会及び基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会、医学教育リトリート等において、カリキュラムに関する教員や学生の自由な意見を参照している。

【今後の計画】

- ・ 今後も教員と学生を交えたカリキュラム評価および改善を継続していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2025 年 4 月 1 日現在）

資料 Q1. 2-2 2025 年度医学教育リトリート実施報告書

1. 3 学修成果

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学部の使命に関連付けて、6 つのコンピテンス領域と 36 のコンピテンシーを制定し、明示している。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・ 2024 年度 入学生より適用された医学部学生の学修成果（アウトカム）2022 年度改訂版では、昨今の新興感染症による国際社会の状況、社会情勢も踏まえた改訂が行

われた。具体的には、V. 社会と医療「健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health: SDH) の観点」「個人から地域・国際社会、地球環境に至るまでの保健・医療・福祉の課題評価」が学修成果に加えられた。

【今後の計画】

- ・今後も引き続き医療の進歩や変化、社会情勢、国際社会の状況も踏まえて医学部学生の学修成果（アウトカム）の改訂を行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B1. 3-1 アウトカム改訂のフローチャート

資料 B1. 3-2 医学部学生の学修成果（アウトカム）2022 年度改訂版

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・国際保健に関して目指す学修成果について注目することが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・2024 年度 入学生より適用された医学部学生の学修成果（アウトカム）2022 年度改訂版では、国際保健を含め、昨今の新興感染症による国際社会の状況も踏まえた改訂が行われた。具体的には、V. 社会と医療「個人から地域・国際社会、地球環境に至るまでの保健・医療・福祉の課題を評価できる。」が加えられた。

【今後の計画】

- ・今後も国際社会の状況も踏まえた国際保健、社会情勢、医療の進歩や変化などを医学部学生の学修成果（アウトカム）に反映させていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B1. 3-1 アウトカム改訂のフローチャート

資料 B1. 3-2 医学部学生の学修成果（アウトカム）2022 年度改訂版

1. 4 使命と成果策定への参画

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・使命と学修成果の見直し・策定には、教員のみならず、学生や職員など主要な教育の関係者も参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・2024 年度 入学生より適用された医学部学生の学修成果（アウトカム）2022 年度改訂版の見直し・策定では、「アウトカム改訂のフローチャート」に沿って医学教育研究室を中心とし、教員以外の職員や学生も参加する教育関連委員会（学部学務委員会、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会）、研修医、パブリックコメント等から幅広く意見収集が行われた。

【今後の計画】

- ・今後も使命と学修成果の見直し・策定には、「アウトカム改訂のフローチャート」に沿って、教員のみならず学生や職員など主要な教育の関係者が参画し、研修医、パブリックコメントなどの幅広い意見収集しながら行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 B1. 3-1 アウトカム改訂のフローチャート

資料 B1. 3-2 医学部学生の学修成果（アウトカム）2022 年度改訂版

資料 B1. 4-3 千葉大学の使命と学修目標改訂に関わる教員名簿

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2025 年 4 月 1 日現在）

資料 B1. 4-5 2025 年度医学教育リトリート実施要領

資料 B1. 4-6 卒業時アウトカム改訂のための Delphi 法実施へのご協力のお願い

資料 B1. 4-7 学修成果の 2022 年度改訂案-パブリックコメント募集要項

資料 B1. 4-8 令和 5 年 1 月 10 日医学部教授会議事概要

資料 B1. 4-9 連絡会議の資料

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・学修成果の策定において、他学部の教員、実習指導者と意見交換を行っていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・使命と目標とする学修成果の策定には、患者代表や地域医療の代表者など、より

広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

・2024 年度 入学生より適用された医学部学生の学修成果（アウトカム）2022 年度改訂版の見直し・作成には、「アウトカム改訂のフローチャート」に沿って、本学の学生、教職員のみならず、他学部、病院関係者、パブリックコメントを反映させる取り組みを行った。

【今後の計画】

・今後も使命と学修成果の見直し・作成の際には、「アウトカム改訂のフローチャート」に沿って、本学の学生、教職員のみならず、他学部、病院関係者、パブリックコメントを反映させる取り組みを行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B1. 3-1 アウトカム改訂のフローチャート

資料 B1. 4-7 学修成果の 2022 年度改訂案-パブリックコメント募集要項

資料 B1. 4-9 連絡会議の資料

2. 教育プログラム

- ・ 能動的学修を推進し、学修管理システム（Moodle など）を活用している。
- ・ 学生の自主的な活動として、スカラーシッププログラム、基礎医学ゼミ、アスパイア・プロジェクトを推進している。要件を満たせば大学院科目の先行履修も可能である。
- ・ 専門職連携教育（IPE）の発展として新たに Daily IPE を実施している。
- ・ 普遍教育と基礎医学教育の統合、基礎医学の水平統合（微生物学、薬理学など）を行っている。
- ・ 5 年次学生全員を対象とする地域臨床実習を推進している。
- ・ 臨床実習における評価として CC-EPOC を活用している。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学修成果基盤型教育（OBE）カリキュラムの継続と見直しが行われている。

改善のための助言

- ・「普遍教育」と医学部専門教育の連続性を考慮した見直しが検討されているが、新

カリキュラムとなった後の再検討を継続的に実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・2020 年度入学生から新カリキュラムとなり、西千葉キャンパスでの普遍教育科目の履修も継続しながら、統合数学、生物統計、AI 数理科学入門、医系生物学といった医学を学ぶ上での基礎となるような専門科目への橋渡しとなる専門基礎科目を設定して継続している。授業評価アンケートの分析結果等を基に、カリキュラムの問題点や改善点についての検討・改変を継続的に行っている。

【今後の計画】

- ・今後も継続的に授業評価を行うとともに、現在の問題点や改善点を抽出・検討し、カリキュラムの改善を継続していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-1 医学部 医学科カリキュラム・ツリー

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・カリキュラムの実施に、能動的学習が取り入れられている。

改善のための示唆

- ・生涯学習につながる能動的学習を、さらに充実させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・基礎医学、臨床医学において能動的学習を取り入れた授業（導入 PBL テュートリアル、生命倫理演習、肉眼解剖学、麻酔・救急ユニットなど）が複数行われている。専門科目全般において Google Classroom や Moodle などの学修管理システムが活用されている。
- ・2020 年度から、医学部 5、6 年生を対象とした「アスパイア・プロジェクト」は、自主的に学修目標、計画の立案と実行を促す枠組みとして定着している。コロナ禍による影響から完全に回復した海外留学を含め、現在もコロナ禍前と同等以上に充実したグローバルな学修・活動が継続して実施されている。

【今後の計画】

- ・次年度以降も引き続き、海外での活動を視野に入れたアスパイア・プロジェクトを力強く推進し、学生の主体的なキャリア形成を支援する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

資料 Q2. 1-2 2025 年度医学教育研究室年次報告書

2. 2 科学的方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・学生が継続的に研究活動に参加できる機会が整備されていることは評価できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・スカラーシッププログラム(ベーシック、アプライド、アドバンスト)および基礎医学ゼミを継続的に実施しており、学生の研究活動への参画を着実に推進している。
- ・要件を満たした希望者には、研究活動に携わる授業科目として大学院科目の先行履修を可能にしている。

【今後の計画】

- ・今後もスカラーシッププログラム、基礎医学ゼミを継続実施し、早期から研究マインドの育成と研究活動への参画をより一層推進する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

資料 B2. 2-2 千葉大学学部学生による大学院授業科目の履修について(先行履修制度)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・専門職連携教育（クリニカル IPE）の成果を、特に卒業生において検証し、より効果的な教育システムを構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・専門職連携教育（IPE）においては、従来のカリキュラムを継続するとともに、臨床実習における IPE プログラムを「Daily IPE」と称する通年実施のカリキュラムへと発展させている。学生からの意見収集を通じてカリキュラムの改善を図っているが、卒業生への本格的な追跡調査とそれに基づくシステム構築には至っておらず、カリキュラム評価の具体化が課題となっている。

【今後の計画】

- ・専門職連携教育（Daily IPE）を着実かつ発展的に実施し、対象となる学生や診療科の範囲を広げるとともに、教育効果を卒業生含めて定量的・定性的に評価するための具体的な枠組みについて、関係部署と連携して検討を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q2.2-1 亥鼻 IPE Step1～4 学習のまとめ 2025

資料 Q2.2-2 コンピテンシー達成度の自己評価調査結果（医療系 IR 友の会第 8 回実践会報告資料「本学の各学年における卒業時コンピテンシーの到達度に関する横断的調査」）

資料 Q2.2-3 2025 年度 dIPE 活動報告および 2026 年度に向けての展望

2.3 基礎医学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・基礎医学教育と普遍教育カリキュラムの統合を試みている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・基礎医学教育と普遍教育カリキュラムの統合が進められ、統合数学、生物統計、AI 数理科学入門、医系生物学といった専門科目への橋渡しとなる専門基礎科目を継続して実施している。

【今後の計画】

- ・個々の授業評価のみならず、カリキュラム全体を通じた学生への効果について定期的・総合的な検証を行い、更なる質的改善を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・「生物統計」、「AI 数理科学入門」、「統合数学」など、新たなコンセプトによる専門基礎科目を開設している。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・生物統計、AI 数理科学入門、統合数学、医系生物学を継続実施している。
- ・医学生物学とヒューマン・バイオロジーの内容を整理して実施している。
- ・「統合臨床微生物学」のカリキュラムを運用している。

【今後の計画】

- ・数学系 3 科目・普遍教育・社会医学系科目の垂直・水平統合を引き続き検討する。
- ・「統合臨床微生物学」の教育効果を評価する。
- ・基礎系・臨床系講座間での領域を超えた連携について継続的に検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

資料 Q2. 3-2 2025 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 Q2. 3-3 感染症に関する臨床実習前教育の意見交換メモ

2. 4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・新たなカリキュラムに「行動科学」を導入している。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・行動科学と社会医学、医療倫理学に関する科目をカリキュラムに定め、実践している。

【今後の計画】

- ・2025 年度より設置した基幹教員カリキュラム評価部会において、科学的、技術的そして臨床的進歩、将来的な社会の必要性を予測しつつ、2026 年度から毎年カリキュラム評価を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・行動科学に関し、6 年間一貫した教育プログラム全体の視点からカリキュラムの継続的な検証と見直しが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・2 年次に体系的に構築された行動科学をカリキュラムに定め、実践している。

【今後の計画】

- ・行動科学と他の科目（1 年次の医学入門Ⅰ・Ⅱ、チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）ユニット、2 年次の神経科学ユニット、3 年次の臨床入門Ⅰ、4 年次の臨床テュートリアルⅡ（精神・神経ユニット）、5、6 年次の臨床医学実習（臨床実習Ⅱ））との連携に関して、学部学務委員会や基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会、基幹教員カリキュラム評価部会等で継続的な検証と見直しを行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

資料 Q2.4-2 2025 年度シラバス（臨床実習シラバス）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・13 診療科にアテンディングドクターを配置し、臨床実習における指導を積極的に行っていることは評価できる。
- ・臨床実習中の学生に院内医療安全セミナーへの出席を義務付けている。
- ・専門職連携教育（クリニカル IPE）と実技評価（IP-OSCE）などを導入し、他職種連携教育を積極的に行っていることは評価できる。

改善のための助言

- ・一部の重要な診療科において4週間の実習期間の中で実習が細分化されており、臨床実習を行う診療科のバランスを考慮し、診療参加型臨床実習の内容をさらに充実すべきである。
- ・アテンディングドクターの有無など、診療科や指導教員によって臨床実習の教育効果に差が出ないように、診療科間で十分に協議し、臨床実習を改善すべきである。
- ・健康増進と予防医学の体験を充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・臨床カリキュラム部会において、臨床実習の見直しについて検討した。具体的には、2023 年度から臨床実習を3週単位に変更し、2024 年度から5年次学生全員を対象に地域臨床実習を行うなどの全面的見直しを行った。
- ・現在、アテンディング（教育専任教員）の数を毎年増やしており各診療科に均等に割り振る試みを開始した。本年も各診療科に7名増員し、ほぼすべての診療科に配置した。また、アテンディングFDを1ヶ月に1回実施しており、各科で行われる教育の均てん化を試みた。
- ・グランドデザイン構想2022「2. 医学部講義・実習実施体制の再構築」に、複数領域の各教員が共同で教育するシステムを再構築する事を盛り込んでいる。
- ・千葉大学災害治療学研究所が設立・竣工し、災害医療等に関する教育活動を行った。
- ・①ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業、②質の高い臨床教育・研究の確保事業、③高度医療人材養成拠点形成事業が文部科学省に採択され実施している。これら3事業はいずれも診療参加型臨床実習の推進にかかわる。ポストコロナ事業

は健康増進と予防医学の体験を充実に向けての事業でもある。地域臨床実習の一環で学生がワクチン接種業務に携わっており、健康増進と予防医学の教育が充実されている。

【今後の計画】

- ・今後、診療科でのバランスを考慮し、診療参加型臨床実習をさらに促進させ、医行為実施の機会を増加させるように予定である。
- ・今後、千葉大学医学部や千葉大学災害治療学研究所における健康増進と予防医学の体験を充実させる。
- ・低学年から継続的に患者に接する機会を確保する一方、3年次に実施していた実習が1年次に移ることにより、教育内容に空白が生じないよう、今後のカリキュラム調整が課題として指摘された。
- ・2026年度から、3年次学生全員に地域志向型 TBL を実施する。
- ・2026年度から、早期地域医療体験実習を1年次学生全員に必修とする。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 5-1 アテンディングの配置に関する申し合わせ

資料 B2. 5-2 千葉大学災害治療学研究所公式 HP

<https://www.ridm.chiba-u.jp/about/index.html>

資料 B2. 5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

資料 B2. 5-4 夏季フィールドワーク HP

https://c-come.m.chiba-u.jp/news/news_250513/

資料 B2. 5-5 「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の選定結果

資料 B2. 5-6 「質の高い臨床教育・研究の確保事業」の選定結果

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・低学年からの患者と接触する機会をさらに増やすことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・1年次から、チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）ユニットにおいて、患者との面談（患者交流体験実習）を行い、3年次に医師見習い体験学習を行っている。
- ・1年次から、地域医療学において、地域枠学生が早期地域医療体験実習を行ってお

り、2026 年度から 1 年次全員に必須とする。また、全学生の希望者が地域医療機関での医療・社会活動を任意で体験できる「夏季フィールドワーク」の機会を提供している。

【今後の計画】

- ・学生が早期に患者との接触機会を持ち、徐々に実際の患者診療への参画を深めていくために、関連するカリキュラムの見直し検討を基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会、学部学務委員会にて行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

資料 Q2. 2-1 亥鼻 IPE Step1～4 学習のまとめ 2025

2. 6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・カリキュラムに関して、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）と整合性を確認しつつ運営している。

【今後の計画】

- ・基礎医学、行動科学、社会医学および臨床医学を適切な関連と配分の明確化をさらに進める。
- ・グランドデザイン将来構想 2022 については、今後の点検・改訂（次回は 2027 年度予定）を見据え、教育に関連する内容について適宜評価を進めていく。
- ・2026 年度の教育リトリートにて、水平的・垂直的統合をさらに推進する取組として、「死」に関する教育カリキュラムについて検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 6-1 「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・カリキュラムにおける水平的統合と垂直的統合をよりいっそう促進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・ウイルス学、細菌学、寄生虫学および感染症ユニットを統合した「統合臨床微生物学」を実施している。
- ・「統合臨床薬理学」における生理学と薬理学、臨床医学の教員の相互乗り入れによる水平的統合および垂直的統合を行っている。
- ・千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022 の「2. 基礎系と臨床系の融合、教員組織の機能一体化」に、医学部教育（講義・実習）、大学院教育、研究、診療等を共同で効率よく行うための指針を盛り込んでいる。

【今後の計画】

- ・基礎／普遍カリキュラム部会や臨床カリキュラム部会で引き続き水平的統合および垂直的統合を検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B1. 4-5 2025 年度医学教育リトリート実施要領

資料 Q1. 2-2 2025 年度医学教育リトリート報告書

資料 B2. 5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

2.7 教育プログラム管理

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・6年間を通じた教育カリキュラムの立案と実施に、責任と権限を持つカリキュラム委員会を設置すべきである。

- ・学生のカリキュラム委員会への積極的な参加を促すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・基礎／普遍カリキュラム部会と臨床カリキュラム部会には学生の代表者が構成員として参画している。また定期的に学生が医学部執行部と意見交換を行う会を設けている。
- ・カリキュラム及び学生生活・学生支援、課外活動等の改善を検討する学生部会が設置されて活動している。
- ・6年間を通じた教育カリキュラムの立案と実施に、責任と権限を持つ基幹教員カリキュラム評価部会を2025年度から設置している。

【今後の計画】

- ・教員と学生の代表者を構成員に含む基礎／普遍カリキュラム部会や臨床カリキュラム部会の運営を継続する。
- ・看護学部または薬学部教員の臨床カリキュラム部会の構成員としての参加を各部署に依頼する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 7-1 2025 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 7-2 2025 年度部局長と学生との懇談会次第

資料 B2. 7-3 千葉大学大学院医学研究院・医学部委員会規程

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・カリキュラム委員会を中心にして、6年間の教育プログラム全体の視点から、学修成果、ディプロマ・ポリシーを踏まえてカリキュラムの改善を計画し実施することが望まれる。
- ・教員と学生以外の、より広い範囲の関係者をカリキュラム委員会に含めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に対応する臨床実習カ

リキュラムを実施している。

- ・カリキュラムの実施や評価に関する委員会・部会の構成員は、文部科学省経験者、厚生労働省経験者、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）経験者など、幅広い構成となっており、6年間の教育プログラム全体の視点から改善が行われている。

【今後の計画】

- ・学部学務委員会や、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会、あるいは医学教育リトリートにて改善に向けて検討していく。
- ・2026年度から臨床カリキュラム部会構成員に看護学部教員や薬学部教員を加え、教員・学生に加え他学部教員を含む体制を整備し、継続的なカリキュラム改善を行う基盤を構築する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B1. 4-5 2025 年度医学教育リトリート実施要領

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2025 年 4 月 1 日現在）

2. 8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・卒前教育と卒後臨床研修教育で共通のステークホルダーが参画し連携している。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・臨床実習評価システム（CC-EPOC）を導入している。
- ・地域病院アテンディングの所属する地域医療機関で地域臨床実習（卒前）と地域医療研修（卒後）を行っている。
- ・地域臨床実習等の臨床実習用のオンライン上の「患者様からの目安箱」システム（患者の意見を吸い上げるシステム）を構築して公開したが、発展的に終了し、今後は日常的な指導医・医療スタッフとの対話を通じたフィードバックを重視する方針とした。
- ・2024 年度秋より、5 年次学生全員を対象に 3 週間の地域臨床実習を行っている。

【今後の計画】

- ・早期地域医療実習と、地域臨床実習の受け入れ施設を拡充（2026 年度で 100 施設前

後)しており、今後もFD、Web説明会等を双方向で行い、地域医療現場の意見を収集する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2.8-1 CC-EPOC プレスリリース資料

資料 B2.8-2 持続的かつ先導的な包括的臨床教育研究支援プログラム(教育)-質の高い臨床教育・研究の確保事業(c-pace)HP

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/dept/hqcc/>

資料 B2.8-3 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 HP

<https://c-come.m.chiba-u.jp/>

資料 B2.8-4 2025 年度外部評価委員会報告書

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・地域や社会の意見を教育プログラムの改良に十分に取り入れることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・卒前教育(医学教育研究室)と卒後臨床研修(医学部附属病院総合医療教育研修センター)が円滑な連携を行っており、病院に寄せられた意見を医学教育に反映している。
- ・専門職連携教育(IPE)では、インタビューならびにフィールドワークのプロジェクトをもとに、教育プログラムの改良を行っている。
- ・2022 年度に開設した千葉県寄附講座地域医療教育学講座において、同講座に所属・兼務する地域病院アテンディングから地域や社会の意見を聴取する体制を整えている。
- ・2024 年度から 5 年次学生全員を対象に 3 週間の地域臨床実習を実施し、約 50 の実習受入医療施設と連携している。

【今後の計画】

- ・地域や社会に関わるステークホルダー(住民、医療機関、行政)との意見交換を行い、教育プログラムを再評価ならびに改良を行う。
- ・地域病院アテンディングや地域臨床実習担当教員からの意見を聴取し、地域の意見を教育プログラムに反映させる。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q2.8-1 第1回地域医療教育FD資料

資料 Q2.2-1 亥鼻 IPE Step1～4 学習のまとめ 2025

資料 Q2.8-3 地域医療教育学講座 HP

<https://www.m.chiba-u.jp/class/mededu/come/index.html>

3. 学生の評価

- ・ 医学入門、導入 PBL テュートリアル、生命倫理演習、IPE Step1～4 で学習姿勢・態度を評価している。
- ・ 低学年からの態度評価とフィードバックを充実させるため、全ての学年を対象とする「問題行動報告および注意喚起・成長支援制度」の導入を決定した。
- ・ 臨床実習や共用試験 OSCE における学習者評価の FD を実施している。臨床実習に CC-EPOC を導入して学生の評価を充実させた。
- ・ 外部の専門家（科目担当ではない医学教育専門家）によって評価が精密に評価される機会を確保することが今後の課題である。
- ・ 地域臨床実習においてポートフォリオによる学習支援と評価を実施している。
- ・ 各学年終了時に卒業時コンピテンシーの自己評価を行っている。コンピテンシー達成に向けての建設的なフィードバックをより一層行うことが今後の課題である。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ Moodle を利用した wbt（web-based test）が、ほぼすべてのユニットで施行されていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 低学年から、態度を確実に評価すべきである。
- ・ 評価が外部の専門家によって精密に吟味されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・ 臨床実習では CC-EPOC を導入し、学生が履修進捗状況を入力するとともに、ポートフォリオ機能を用いた振り返りを行える体制を整備した。
- ・ 2024 年度から開始した地域臨床実習（臨床実習Ⅰ）において、ポートフォリオ提出

を必須化し、学生の学修状況や経験内容の把握を行っている。

- ・臨床実習では、従来のイエローカード制を継続運用し、問題行動を抑止および早期に対処するための対応を行っている。
- ・医学部1年次に開講される「医学入門Ⅰ・Ⅱ」では、講義開始時に、授業内容に基づいて自らの意見や考えをまとめる課題を出すことを予告している。最終試験では、複数回（3回分）の講義に関する感想文を提出させ、学生の理解度や姿勢を評価している。この取り組みを通じて得られた知見は、今後の講義の質的向上や、学生の授業への主体的な取り組み姿勢の育成に活かしていく予定である。
- ・導入PBL テュートリアル、生命倫理演習、IPE Step1～4等において、グループワークや討論への参加状況を含めた態度評価を実施している。
- ・毎年実施される全学的なシラバスチェックにあわせて、医学部開講科目の「評価方法・基準レポート」欄を確認し、適切な評価方法を取り入れているかについてチェックを行っている。
- ・2025年度より、「問題行動報告および注意喚起・成長支援制度」を導入した。本制度では、学生の問題行動を早期に把握・共有し、個別面談や成長支援プログラム等を通じて、学生の成長支援と教育環境改善につなげることを目的としている。
- ・アテンディング（教育専任教員）のFDを継続して実施している。

【今後の計画】

- ・対面中心の講義・演習における態度を評価する。
- ・外部の専門家（科目担当でない医学教育専門家など）によって評価が精密に評価される機会を確保する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B3. 1-1 2025 年度履修案内

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

資料 Q2. 4-2 2025 年度シラバス（臨床実習シラバス）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

資料 Q2. 3-2 2025 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 7-1 2025 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-6 2025 年度部局 FD 実施報告書

資料 Q1. 2-2 2025 年度医学教育リトリート報告書

資料 B3. 1-8 問題行動報告および注意喚起・成長支援制度概要

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ wbt (web-based test) では試験の信頼性・妥当性の検証を行っている。

改善のための示唆

- ・ wbt (web-based test) 以外の試験においても、信頼性・妥当性の検証を行うことが望まれる。
- ・ CC snapshot をより多くの診療科で活用することが望まれる。
- ・ ポートフォリオをより多くの学生が使用することが望まれる。
- ・ 外部評価者の活用が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・ 学内担当医師を対象として、臨床実習前 OSCE の評価方法について FD を行い評価の信頼性の向上に努めている。
- ・ 総合統一試験 FD において、問題の正答率や学生からのフィードバックを踏まえた問題作成・見直しを実施している。
- ・ 臨床テュートリアル説明会では、チューターに対して評価方法や概念マップに関する FD を行い、評価の均てん化を図っている。
- ・ アテンディングミーティングにおいて教員の教育業務への参加意欲向上について討議するなどの FD を実施し、より多くの教員が教育（学修者評価を含む）に参画できる環境を整えている。2025 年度は FD を 11 回開催した。
- ・ 3 年次の医師見習い体験学習において、学生は学内あるいは学外の実習先のいずれかを選択することができる。学外施設で実習した学生の評価のための FD を学外施設の医師を対象に実施している。
- ・ 地域臨床実習において、学生ポートフォリオを用いた形成的フィードバックを実施するとともに、地域病院アテンディング間で学生指導方法や評価に関する知見共有を行っている。
- ・ 医学教育リトリートでは、学修者評価や生成 AI 活用等をテーマとして、医学教育専門家を含めた検討を行い、評価方法の継続的改善を進めている。

【今後の計画】

- ・ アテンディング（教育専任教員）の教育業務を一般教員にも浸透するよう FD を行っていく。
- ・ 共用試験 OSCE、総合統一試験、臨床実習評価等について、評価の妥当性・信頼性に関する検証を継続する。
- ・ 外部の専門家（科目担当でない医学教育専門家など）による評価体制の構築を進める。

- ・臨床実習では、CC snapshot に代えて CC-EPOC を導入した。将来的な卒前・卒後のシームレスな活用や、縦断的・施設横断の評価の推進を検討する。
- ・地域臨床実習におけるポートフォリオ活用を継続し、形成的フィードバックおよび自己省察支援の充実を図る。

改善状況を示す根拠資料

資料 B3. 1-1 2025 年度履修案内

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

資料 Q2. 4-2 2025 年度シラバス（臨床実習シラバス）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

資料 Q2. 1-2 2025 年度医学教育研究室年次報告書

資料 Q2. 3-2 2025 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 7-1 2025 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 Q3. 1-7 学生ポートフォリオ（地域臨床実習）

資料 B3. 1-6 2025 年度部局 FD 実施報告書

資料 Q1. 2-2 2025 年度医学教育リトリート報告書

3. 2 評価と学修との関連

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・CC snapshot や miniCEX による形成的評価と、臨床実習ブロック終了時の CPX (Clinical performance examination) による総括的評価を率先して導入した。
- ・wbt (web-based test) を用いた形成的評価が行われていることは評価できる。

改善のための助言

- ・目標とする学修成果について、学生が達成していることを段階的に評価する方法と基準を明示し、実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・各学年終了時に卒業時コンピテンシーの自己評価を行っている。
- ・2025 年度の医学教育リトリートで生成 AI ネイティブ時代の医学教育に関しその問題点と重要性に関し認識を高めた。
- ・科目別達成レベルマトリックス表に則った学修評価を継続するとともに、臨床実習においては CC-EPOC の活用がはじまった。

・学生や教員、教務事務を交えた医学教育リトリートや、医学教育研究室などの教育関係者による審議を継続して行い、建設的なフィードバックを継続した。

【今後の計画】

- ・卒業コンピテンシーの客観的評価を各学年で行うかが引き続きの課題である。
- ・学生本人へのフィードバックの充実について、さらなる工夫が必要である。
- ・科目別達成レベルマトリックス表に則った学修評価を継続するとともに、臨床実習においては CC-EPOC の活用を進めていく。
- ・学生や教員、教務事務を交えた医学教育リトリートや、医学教育研究室などの教育関係者による審議を継続して行い、建設的なフィードバックをより一層行う環境整備を継続する。
- ・臨床実習に関わる大学病院アテンディングや地域病院アテンディングに対するフィードバックを含めた教育技能の指導を継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B3. 1-1 2025 年度履修案内

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

資料 Q2. 4-2 2025 年度シラバス（臨床実習シラバス）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

資料 Q2. 1-2 2025 年度医学教育研究室年次報告書

資料 Q2. 3-2 2025 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 7-1 2025 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 Q1. 2-2 2025 年度医学教育リトリート報告書

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・前回受審時に改善点として指摘された4年次の試験回数について適正化を図っている。

改善のための示唆

- ・評価結果に基づいた時機を得た、建設的なフィードバックをより一層行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・臨床実習に関わる大学病院アテンディングや地域病院アテンディングにフィードバ

ックを含めた教育技能の指導を継続している。

【今後の計画】

- ・教員と学生を交えた医学教育リトリートや、医学教育研究室などの教育関係者による審議を継続して行い、建設的なフィードバックをより一層行う環境を継続する。
- ・臨床実習に関わる大学病院アテンディングや地域病院アテンディングに対するフィードバックを含めた教育技能の指導を継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B3. 1-1 2025 年度履修案内

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

資料 Q3. 2-3 2020 年度医学教育研究室年次報告書

資料 Q3. 2-4 2021 年度医学教育研究室年次報告書

資料 Q3. 2-5 2022 年度医学教育研究室年次報告書

資料 Q3. 2-6 2023 年度医学教育研究室年次報告書

資料 Q3. 2-7 2024 年度医学教育研究室年次報告

資料 Q2. 1-2 2025 年度医学教育研究室年次報告

資料 Q3. 2-9 2020 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 Q3. 2-10 2021 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 Q3. 2-11 2022 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 Q3. 2-12 2023 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 Q3. 2-13 2024 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 Q2. 3-2 2025 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 Q3. 2-15 2020 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 Q3. 2-16 2021 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 Q3. 2-17 2022 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 Q3. 2-18 2023 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 Q3. 2-19 2024 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 7-1 2025 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 Q3. 2-21 2020 年度医学教育リトリート報告書

資料 Q3. 2-22 2021 年度医学教育リトリート報告書

資料 Q3. 2-23 2022 年度医学教育リトリート報告書

資料 Q3. 2-24 2023 年度医学教育リトリート報告書

資料 Q3. 2-25 2024 年度医学教育リトリート報告書

資料 Q1. 2-2 2025 年度医学教育リトリート報告書

4. 学生

- ・ 入学者選抜では、本学が求める医師としての資質を総合的に評価するとともに、身体に不自由がある入学志願者に対しては要望に応じて事前相談を実施している。
- ・ 地域枠入試については、千葉県と連携をとって定員を決めている。2026 年度入学者選抜（2025 年度実施）から地域枠に学校推薦型選抜を導入した。
- ・ 全学生を対象とするメンター制度を実施している。成績不振学生に対して学務・学生支援部会において面談と支援を行っている。身体障害などの問題を有する学生に対しては合理的配慮検討 WG が支援している。
- ・ 2025 年度から学部学務委員会の下に学生部会を設置して活動を開始した。その他の学務系委員会・部会の構成員である学生に付与すべき議決権について規程整備を行うことが今後の課題である。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学士編入学について、実績を検証し対応している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・ 入学者選抜は、学力検査、調査書に加えて面接試験を採用しており、受験生 1 名に対し 3 名の教員がそれぞれ異なる課題で評価し、公正かつ高い客観性をもって本学が求める医師としての資質を総合的に評価している。
- ・ 身体に不自由がある入学志願者に対する事前相談と、その申請方法の掲示を実施している。入学後には学部学務委員会の下部組織である合理的配慮検討 WG が中心となって対応する体制が整っている。
- ・ 医学部を含む医学系総合研究棟（治療学研究棟）では「千葉県福祉のまちづくり条例」に基づいたバリアフリー対応が取られている。
- ・ 国内外の他学部や機関からの転編入について、2020 年度入試より他学部卒の学士の 3 年次編入制度を廃止したが、学生による基礎系研究室配属および 6 年一貫の研究医養成プログラム選択を可能にしている。

【今後の計画】

- ・ 引き続き明確な記載、客観性の原則に基づく入学者選抜を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 B4. 1-1 千葉大学年度計画「入学者の受け入れ方針」の検証

資料 B4. 1-2 第 3 期中期計画

資料 B4. 1-3 第 4 期中期計画

資料 B4. 1-4 千葉大学医学部入学案内（千葉大学医学部 HP）

<https://www.m.chiba-u.jp/admissions/undergraduate/>

資料 B4. 1-5 千葉県医師修学資金貸付制度（千葉県 HP）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/iryou/ishi/ishikakuho/kashitsuke.html>

資料 B4. 1-6 2026 年度千葉大学一般選抜学生募集要項

- ・身体等に障害のある入学志願者の事前相談（53P）

資料 B4. 1-7 身体に不自由がある学生の入学許可・在籍実績について

資料 B4. 1-8 学生支援課 障害等にかかる支援・配慮申請書

資料 B4. 1-9 西千葉キャンパス バリアフリーマップ

資料 B4. 1-10 「千葉県福祉のまちづくり条例」準拠の整備項目表（医学部を含む医学系総合研究棟〔治療学研究棟〕）

資料 B4. 1-11 学生支援センター組織図

資料 B4. 1-12 基礎・普遍教育のカリキュラム改革（2019 年度医学教育リトリート）

資料 B4. 1-13 第 13 回東日本研究医養成コンソーシアム参加者

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・入学決定に対する疑義申し立ての手続きの明文化を進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・入学者選抜の成績開示は 2001 年度から開始しており、同年度募集要項から手続き方法を記載している。さらに詳細を求める者に対しては、法人文書の開示請求の制度により開示をしており、手続き方法は千葉大学ホームページに掲載している。
- ・総合大学である特性上、入学者選抜に関する新たな制度の採用は全学として対応する案件となるが、現時点では疑義申し立て制度を明文化することは予定されていない。
- ・2025 年度にアドミッションポリシー(入学方針)を見直し、2026 年度入学者選抜

(2025 年度実施) より地域枠に学校推薦型選抜を導入した。

【今後の計画】

- ・引き続き疑義の生じない入学者選抜を継続するとともに、疑義発生時には全学の方針に従い適切に対応する。
- ・学校推薦型選抜を県内外に広く周知し、地域医療を志すより優秀な生徒を募集してゆく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B4. 1-6 2026 年度千葉大学一般選抜学生募集要項

資料 Q4. 1-2 「大学案内 法人文書の開示請求」(千葉大学 HP)

<https://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/request.html>

資料 Q4. 1-3 国立大学法人千葉大学個人情報開示請求等取扱規程

資料 Q4. 1-4 千葉大学医学部入学者受入れの方針

4. 2 学生の受け入れ

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・教育プログラムの全段階における教育能力に応じて入学者数を定めている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・千葉大学医学部では、入学者数を明確にしており、この入学者数は教育プログラムの全段階における教育能力に対応している。
- ・地域枠入学者数は、国の医師確保対策に準拠し、千葉県健康福祉部医療整備課と連携して策定している。

【今後の計画】

- ・教育プログラムの全段階における教育能力に対応した入学者数を決定し、千葉県健康福祉部医療整備課と連携して策定した地域枠の入学者数を医学部募集要項に明示する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B4. 1-1 千葉大学年度計画「入学者の受け入れ方針」の検証

資料 B4. 1-6 2026 年度千葉大学一般選抜学生募集要項

資料 B4. 2-3 地域枠導入後の入学定員の推移

資料 B2. 6-1 「千葉大学グローバル人材育成 “ENGINE”」

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・千葉大学医学部では、社会における医師の役割の変化に応じ、国の医師確保対策に準拠し、千葉県健康福祉部医療整備課と連携しながら地域枠の入学定員数を検討している。さらに、NPO 法人千葉医師研修支援ネットワーク、地域医療で働く医師などとも連携し、医師不足が深刻な地域や診療科の医療を担う医師養成に努めている。
- ・2025 年度に具体的な選抜方法を決定し、2026 年度入学者選抜（2025 年度実施）より地域枠に学校推薦型選抜を導入し、合格者を受け入れた。

【今後の計画】

- ・定期的な入学定員数の検討、千葉県および県内の地域医療に従事する医師との連携、地域枠入学者選抜の実施を継続し、県内の医師不足が深刻な地域、診療科の医療を担う医師の養成に努める。
- ・地域枠入試の学校推薦型選抜を県内外に広く周知し、地域医療を志すより優秀な生徒を受け入れてゆく。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q4. 2-1 医学部入学者数の推移（H29～R8）

資料 Q4. 2-2 NPO 法人千葉医師研修支援ネットワーク

<https://www.dcs-net.org/npo/>

資料 Q2. 4-2 2025 年度シラバス（臨床実習シラバス）

- ・キャリア講演会（医療安全・医療プロフェッショナルリズム WS）（p93、p94）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

資料 B4. 1-5 千葉県医師修学資金貸付制度（千葉県 HP）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/iryou/ishi/ishikakuho/kashitsuke.html>

資料 B4. 1-6 2026 年度千葉大学一般選抜学生募集要項

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ 詳細な指導方針を規定し、それぞれの学生に教員を配置したメンター制度は評価できる。
- ・ 学務・学生支援部会、学生相談室、総合安全衛生管理機構、医学教育研究室など、複数のカウンセリング組織が機能している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・ 成績不振学生を早期に発見し、適切な介入により、6年間で卒業できる能力を修得させるための学務・学生支援部会が組織されている。3つの支援すなわち学修、経済、キャリア形成について担当している。
- ・ 身体障害や体質などの問題を有し、合理的配慮を要する学生に対して、学部学務委員会の下部組織として合理的配慮検討WGを設置している。WGメンバーである教職員が支援チームとなり、学修や学生生活を支援している。

【今後の計画】

- ・ 学務・学生支援部会において、成績不振学生等に対する面談と支援を継続する。また、経済的な支援対策についても学内外の支援制度の情報を入手し周知に努める。
- ・ 身体障害や体質などの問題を有する学生に対して合理的配慮検討WGによる組織的な支援を継続する。
- ・ 問題行動報告および注意喚起・成長支援制度を整備・開始し、経済的、あるいは身体的な要因が見いだされた場合は、支援につなげていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B4. 3-1 面談記録書

資料 B4. 1-5 千葉県医師修学資金貸付制度（千葉県 HP）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/iryou/ishi/ishikakuho/kashitsuke.html>

資料 B3. 1-8 問題行動報告および注意喚起・成長支援制度概要

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学生支援部会にて学修進度に基づいてカウンセリングが行われている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・全学生を対象とするメンター制度において、教員1名がメンターとして、各学年の学生を1名ずつ担当しており、学生の要望に応じてキャリアガイダンスやプランニングを行っている。
- ・メンター制度の活用を促すための啓発用ポスターを作成・掲示している。

【今後の計画】

- ・学務・学生支援部会等において、メンター制度について定期的に審議する。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q4.3-1 メンター制度ガイドライン

資料 Q4.3-2 メンター制度啓発ポスター

資料 Q4.3-3 2025 年度学務・学生支援部会議事要旨

4.4 学生の参加

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・使命の策定、および教育プログラムを策定・管理・評価する委員会へ学生が実質的に参加し、適切に議論に加わるべきである。
- ・学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参加すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・医学教育リトリートに学生の代表者が参加し、教育プログラムに関する課題について審議に参加している。また、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会に学生の代表者が構成員として参加している。
- ・2025 年度より学部学務委員会の下に、学生が主体として構成された「学生部会」を設置し、学務及び学生生活の改善に関することの審議を開始した。

【今後の計画】

- ・学部学務委員会の規程を整備し、学生の委員会への参加を明確にする。
- ・今後も医学教育リトリートに学生の代表者が参加し、教育プログラムに関する審議

に關与する。

- ・「学生部会」において、カリキュラムの改善、学習環境の改善、学生支援の改善、課外活動の改善等に関することを審議する。

改善状況を示す根拠資料

資料B4. 4-1 2025年度基礎／普遍カリキュラム部会委員名簿

資料B4. 4-2 2025年度臨床カリキュラム部会委員名簿

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2025 年 4 月 1 日現在）

資料 B4. 4-4 2025 年度学生部会委員名簿

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ボランティア活動支援センター等を通じて、学生のボランティアへの奨励がなされている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・学生の基礎研究能力の育成のため、スカラシッププログラムで学生が行う基礎研究活動を奨励し、東日本研究医養成コンソーシアムや、ちば Basic & Clinical Research Conference (BCRC)、国内外の学会における発表を行っている。
- ・亥鼻キャンパスの医療系3学部の学生により、大学祭「亥鼻祭」が開催され、学術系企画、受験・留学相談、家族向け医療情報提供を行い、地域との交流を進めている。
- ・大学祭「亥鼻祭」において、地域医療教育学教員と地域卒学生が中心となり、地域医療に着目したイベント「やってみよう!地域医療体験」を行っている。

【今後の計画】

- ・地域医療学等の学修を通じて、学生が地域医療に貢献する活動を奨励、支援していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q4. 4-1 2025 年度東日本研究医養成コンソーシアム

資料 Q4. 4-2 第 19 回ちば Basic & Clinical Research Conference

資料 Q4. 4-3 2025 年度亥鼻祭パンフレット

5. 教員

- ・ 女性を対象とした特別昇任制度の周知と普及を進めることや、文部科学省も推進している講師以上の教員における女性及び外国人の増加を推進することが今後の課題である。
- ・ 2025 年度から医学部の基幹教員全員が所属する基幹教員カリキュラム評価部会を学部学務委員会の下に設置し、個々の教員がカリキュラム全体を理解し、改善に向けて提言ができる体制を整えた。
- ・ 適正な人数で各カリキュラムを遂行するために、他の講座の教員との連携を深め協働して教育を担当する体制を推進する。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・「医学研究院グランドデザイン将来構想」に則り、教員の募集と選抜方針を策定している。

改善のための助言

- ・教員の募集と選抜方針では、女性教員の比率などの教員間バランスを考慮すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・「千葉大学大学院医学研究院グランドデザイン将来構想 2022」に則り新教授選考時や再任審査の機会を活用し、女性活躍促進を含めた教員人事の活性化の検討を行っている。
- ・教員の選考方針は、教員選考委員会が公正に判断して候補者を推薦し、学長により任用される。千葉大学では女性を対象とした特別昇任制度が設置されており、現時点（2026 年 3 月 31 日現在）で大学院医学研究院の女性教員は全教員 181 名中 33 名（18.2%）（2025 年 3 月 31 日：26 名）である。同時点で外国人教員は全教員 181 名中 2 名（1.1%）（2025 年 3 月 31 日 1 名）である。
- ・附属病院では、医師キャリア支援センターを設置し、女性教員が出産・育児でキャリアを中断せず、継続できるような取り組みを行っている。
- ・千葉大学は、2023 年 6 月に公布された「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」を踏まえ、多様性(Diversity)・

公正性(Equity)・包摂性(Inclusion)を推進し、帰属感(Belonging)を感じられる大学コミュニティを育んでいくことが重要であるとの認識に立ち、2024年9月に「千葉大学DEIB(C-DEIB)宣言及び基本方針」を制定している。

【今後の計画】

- ・新教授選考時や再任審査の機会を活用した教員人事の活性化の検討や、自己点検および評価のための Institutional Research(IR)部門の整備や公的データベース等の有効活用を行う。
- ・女性を対象とした特別昇任制度の周知と普及を進める。また、文部科学省も推進している講師以上の教員における女性及び外国人の増加を推進する。
- ・附属病院の医師キャリア支援センターにおいて、育児中の女性医師などを支援する医師枠の設置、千葉県医師キャリアサポートブックの作成、育児などの悩みに対応するメンター制度の設置を行い、女性医師のキャリア継続を積極的に支援していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

資料 B5. 1-2 医学部人事情報一覧(2026年3月31日現在)(※部外秘)

資料 Q2. 8-3 地域医療教育学講座 HP

<https://www.m.chiba-u.jp/class/mededu/come/index.html>

資料 B5. 1-4 千葉大学における性の多様性を尊重するための対応ガイドライン

https://www.gakuzyutsu.chiba-u.jp/about/files/sogi_guidelines_ja.pdf

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・地域医療教育の充実のため、県や市町村からの財政支援により教員を確保している。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・2022年度より大学院医学研究院に千葉県寄附講座地域医療教育学講座を設置し、地域枠学生や一般枠学生に対する教育を行う教員を地域病院等から採用している。

【今後の計画】

- ・地域医療教育学講座では、引き続き、(1)地域医療に関心を持つ医学生(地域枠学生等)への支援、(2)現場における地域医療の実践と指導、(3)千葉県内における地域医療教育ネットワークの構築・強化、(4)地域医療の実践とに従事する医師の診

療能力や指導能力の向上に関する教育の実践、(5)地域病院における再就業支援取組の強化を行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

5. 2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・教員に対する業績は、各教員の教育、研究、診療、社会貢献、大学運営間のバランスを考慮し、適切に評価されている。

改善のための助言

- ・個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解するよう図るべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・毎年、授業を担当する全講座の教員及び学生代表が参加する医学教育リトリートを開催し、特定のテーマも含めて検討を行っている。
- ・医学部の基幹教員全員及び医学部附属病院の授業を担当する主要教員が構成員となる基幹教員カリキュラム評価部会を学部学務委員会の下に 2025 年度から設置した。

【今後の計画】

- ・毎年の医学教育リトリートにおける特定のテーマ等についての FD を継続する。
- ・基幹教員カリキュラム評価部会において、個々の教員がカリキュラム全体を理解し、改善に向けて提言ができるための資料共有や部会活動を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 B3. 1-6 2025 年度部局 FD 実施報告書

資料 Q1. 2-2 2025 年度医学教育リトリート実施報告書

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・アテンディングドクター制度により臨床実習で教員を確保していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・カリキュラムの担当教員と内容に関しては、学部学務委員会や基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会で定期的に検証と見直しがされている。
- ・適切な教員数については医学部執行部会や教授会等で医学部長のリーダーシップにより検討されている。

【今後の計画】

- ・適正な人数で各カリキュラムを遂行するために、他の講座の教員との連携を深め、複数の部署に所属する教員が協働して教育を担当する体制を引き続き推進して行く。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

6. 教育資源

- ・ 附属病院の財政状況に応じて、実習学生用控室を移転し、ラーニングコモンズと称する学習・ディスカッション用スペースの確保を行う予定である（附属病院の財政状況により計画は一時停止中）。
- ・ 地域臨床実習の受け入れ医療施設の担当者を対象とする FD を実施している。地域臨床実習で学生が経験した症例、症候・病態に関するデータを収集し、大学病院の各診療科（大学病院アテンディング）及び地域病院アテンディングにフィードバックしている。
- ・ 教育実践に関する教員・指導医向けの動画教材をホームページで公開している。
- ・ 2024 年度に臨床実習を開始する学生から、臨床実習のカリキュラム改編にともなってアスパイア・プロジェクト期間を 8 週（4 週×2）から 12 週（3 週×4）に拡充している。

6. 1 施設・設備

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ 前回受審時に改善点として指摘された講義室、実習室などの老朽化や収容能力不足

に対応して医学部治療学研究棟が建設中である。

- ・臨床トレーニング施設としてシミュレーション・ラボが充実している。

改善のための助言

- ・現状ではアクティブ・ラーニング・スペース、チュートリアル室などが不足しているため、医学部治療学研究棟の竣工により、施設・設備が整備されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・前回受審時に改善点として指摘された講義室、実習室などの老朽化や収容能力不足に対応して、医学系総合研究棟（治療学研究棟）が 2021 年に完成し、講義室、実習室、IT 室、自習室、グループ学習室、アクティブ・ラーニング・スペース等が整備され、教育環境が大きく改善されている。
- ・同棟では、可動式机と Wi-Fi 環境を備えた講義室、3 階のアクティブ・ラーニング・スペース、グループ学習室、第 1 実習室（ウェットラボ）、第 2 実習室（ドライラボ）、多目的 IT 室等を活用し、講義、小グループ学習、基礎医学実習、顕微鏡実習、web-based test 等を実施している。
- ・1 階には、解剖実習室とクリニカルアナトミーラボ（CAL）が整備され、学生の解剖学教育、医師の臨床解剖・手術手技教育、医療機器開発等に活用されている。
- ・CCSC では、シミュレーション・ラボ、パフォーマンス・ラボ等を活用し、学生や、医師、看護師等の医療専門職者に対して、卒前・卒後を通じた臨床技能教育を実施している。
- ・2023 年 3 月に竣工した「災害治療学研究所」は、ワンルーフ型の共創的先端研究拠点であり、多様な異分野間の融合的研究や文理横断連携研究を先端的な設備で支援し、共創的な研究クラスター構想を活性化し、多種多様な研究者が集約・特化しながら、研究教育を統合的に推進している。

【今後の計画】

- ・医学系総合研究棟（治療学研究棟）に整備されたアクティブ・ラーニング・スペース、グループ学習室、実習室等の各施設について、利用状況や学生・教職員のニーズと意見を踏まえながら、運用の継続と、より多面的でアクティブな有効活用および運用改善を継続する。
- ・附属病院の財政状況および施設再配置の状況に応じて、実習学生用控室の移転およびラーニングコモンズとしての学習・ディスカッション用スペースの確保を引き続き検討する。
- ・CCSC および CAL については、医学教育カリキュラム、共用試験 OSCE、臨床実習前教育、臨床実習、卒後教育との連携を強化し、施設・設備の安全管理、保守点検、

利用ルールの整備を継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B6. 1-1 千葉大学大学院医学研究院・医学部医学系総合研究棟(治療学研究棟)
案内

資料 B6. 1-2 千葉大学医学部附属病院中央診療 A2 棟改修 (地下 1 階ラーニングコモンズ) 図面

資料 Q6. 1-2 千葉大学大学院医学研究院附属クリニカル・スキルズ・センター公式 HP

<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/ccsc/>

資料 B6. 1-4 千葉大学医学研究院クリニカルアナトミーラボ公式 HP

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/dept/cal/>

資料 B2. 5-2 千葉大学災害治療学研究所公式 HP

<https://www.ridm.chiba-u.jp/about/index.html>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・新外来診療棟に教育目的のプリセプティングルームを複数設置している。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・新外来診療棟のプリセプティングルームを含め、附属病院の臨床教育施設を活用し、臨床実習中の教育、指導、振り返りを行っている。
- ・CCSC、CAL、医学系総合研究棟(治療学研究棟)の教育設備を組み合わせることで、講義、小グループ学習、シミュレーション教育、臨床技能教育、解剖・臨床解剖教育を一体的に実施している。
- ・CCSC では、シミュレーション・ラボ、パフォーマンス・ラボ、アナトミー・ラボを活用し、学生や、医師、看護師等に対して卒前・卒後を通じた系統的なシミュレーション技能教育を実施している。
- ・CAL では、学生・医師等に対して、臨床医学に即した解剖・手術手技教育を提供している。

【今後の計画】

- ・CCSC や CAL について、教職員や学生と意見交換を行いながら、医学教育カリキュラ

ムに即した運用を継続する。

- ・シミュレーション教育、臨床技能教育、解剖教育の質を維持・向上させるため、設備の点検、更新、予約・利用体制の整備を継続する。
- ・新外来診療棟のプリセプティングルーム等について、臨床実習における教育効果を高めるため、臨床各科および医学教育研究室と連携して活用を継続する。
- ・災害治療学研究所については、異分野融合、文理横断連携、共創的研究を支える先端研究拠点として、医学教育・研究活動と連携し、研究教育環境の有効活用を継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B6. 1-1 千葉大学大学院医学研究院・医学部医学系総合研究棟（治療学研究棟）案内（CAL について・p6）

資料 B6. 1-3 千葉大学大学院医学研究院附属クリニカル・スキルズ・センター公式 HP
<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/ccsc/>

資料 B6. 1-4 千葉大学医学研究院クリニカルアナトミーラボ公式 HP
<https://www.m.chiba-u.ac.jp/dept/cal/>

6. 2 臨床実習の資源

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・臨床実習施設として、多数の関連病院と良好な連携関係を築いている。

改善のための助言

- ・臨床実習施設の患者数と疾患分類を検討し、教育資源として検証すべきである。
- ・学外臨床実習施設の指導者に対して教育の質を保証する工夫を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・各学年終了時の卒業時コンピテンシーの自己評価を継続している。
- ・科目別達成レベルマトリックス表に則った学修評価を継続するとともに、臨床実習においては CC-EPOC を利用している。
- ・2024 年度入学生より「千葉大学医学部生の学修成果（アウトカム）2022 年度改訂版」を適用している。

【今後の計画】

- ・CC-EPOCを活用しフィードバックを行う体制を構築する。また、CC-EPOCから集めたデータの活用について検討する。

- ・地域病院アテンディングに対して、週に 1 回ファカルティ・ディベロップメント (FD) を継続し、学外臨床実習施設の指導者に対する教育の質向上を継続して行く。
- ・地域臨床実習の学外実習受入医療施設の実習担当者に対して毎年 FD を継続する。
- ・指導医向けの動画教材の作成を継続し、順次新たな情報をホームページで公開していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B6. 2-1 千葉大学医学部附属病院における「患者数と疾患分類」データ (DPC2021)

資料 Q2. 4-2 2025 年度シラバス (臨床実習シラバス)

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

資料 B6. 2-3 経験症候・疾患リスト

資料 B6. 2-4 2025 年度地域医療教育学・年間計画

資料 B2. 8-2 持続的かつ先導的な包括的臨床教育研究支援プログラム (教育) -質の高い臨床教育・研究の確保事業(c-pace)HP

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/dept/hqcc/>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・臨床実習には在宅医療などのプライマリ・ケアの実習も含めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・2024 年度から地域臨床実習を開始し、在宅医療などのプライマリ・ケアの実習機会を拡充し、継続している。
- ・臨床実習では、各診療科ローテーション中の学外実習における在宅医療や地域包括ケア等のプライマリ・ケアを経験できる臨床実習を継続している。

【今後の計画】

- ・地域臨床実習等における在宅医療を含めたプライマリ・ケア領域に関する実習(地域臨床実習など)を継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q2. 4-2 2025 年度シラバス (臨床実習シラバス)

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ LMS (Learning Management System) として「千葉大学 Moodle」が機能している。
- ・ 全学に暗号化された無線 LAN システムが整備されており、医学部、看護学部、薬学部にも 60 を越えるアクセスポイントが配置されている。
- ・ 臨床実習において学生がモバイル端末を利用して、随時エビデンスを収集できるようにしている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・ LMS (Learning Management System) として「千葉大学 Moodle」および「Google Classroom」を活用している。また、Microsoft 365 による「Microsoft Teams」等を、授業連絡、資料共有、オンライン会議、グループワーク等に活用している。
- ・ 千葉大学 Moodle では、授業教材や資料の閲覧、小テスト、課題等を通じて、学生の予習・復習を支援している。
- ・ 学生ポータル、Campus Plan、シラバス検索システム、Google Workspace、Microsoft 365 等が整備され、学生は授業情報、成績、各種通知、教材等へオンラインでアクセスできる。
- ・ メディア授業サイトを通じて、オンデマンド型および同時双方向型の授業の受講方法、受講環境、受講上のルール、シラバスの確認方法、Google Workspace の利用方法等を学生に周知している。
- ・ 全学に暗号化された無線 LAN システムを整備しており、医学部、看護学部、薬学部にも 60 を越えるアクセスポイントを配置している。
- ・ 臨床実習では、学生がモバイル端末等を用いて随時エビデンスを収集できる環境を整備している。また、2025 年度臨床実習シラバスでは、学生が診療チームの一員として電子カルテ上で診療録を記載し、指導医の確認を受けることが示されている。
- ・ 臨床実習では、Moodle や Web 会議システムを用いたメディア形式のミニレクチャー、オリエンテーション、課題提示等も行われている。
- ・ オンラインでのシラバス検索システムにより、医学部の授業科目報を参照できる。

【今後の計画】

- ・情報通信技術を倫理面、医療安全面、個人情報保護、情報セキュリティに配慮しながら有効に活用できているかについて、継続的に評価を行う。
- ・Moodle、Google Classroom、Microsoft Teams、電子シラバス、学生ポータル等の利用状況を踏まえ、学生および教職員が必要な教育情報に円滑にアクセスできるよう、案内や利用方法の周知を継続する。
- ・臨床実習においては、電子カルテ、診療端末、モバイル端末等の利用に際し、患者情報保護、診療録記載ルール、個人情報の持ち出し禁止等について、シラバス、ガイダンス等を通じて継続的に周知する。
- ・生成 AI を含む新たな情報通信技術の教育・診療支援への活用については、個人情報保護、医療情報システム安全管理、教育効果、倫理面に留意しながら、利用ルールの整備および意見聴取を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料 B6. 3-1 「千葉大学 Moodle」 HP

<https://moodle.gs.chiba-u.jp/moodle/>

資料 B6. 3-2 千葉大学の教育・学修で使用するシステム一覧

<https://sites.google.com/gs.chiba-u.jp/slc/system>

資料 B6. 3-3 千葉大学学生ポータル HP

<https://portal.gs.chiba-u.jp/>

資料 B6. 3-4 「オンデマンド型のメディア授業の受講」メディア授業サイト（学生）HP

<https://slc.gs.chiba-u.jp/>

資料 Q2. 4-2 2025 年度シラバス（臨床実習シラバス）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

資料 B6. 3-7 2025 年度病院情報システム推進委員会議事要旨

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・「普遍教育」において情報通信に関する技術、知識、倫理の教育が行われており、医学部全学生の必修科目になっている。

改善のための示唆

- ・学生がカルテを書くための病院情報システム端末について、十分な台数を確保することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・「普遍教育」および医学部教育において、情報通信に関する技術、知識、倫理の教育が行われており、医学部全学生の必修科目・関連科目として位置づけられている。
- ・電子シラバス検索システム、Moodle、Google Classroom、学生ポータル等を活用することで、学生が授業情報、教材、課題、シラバス、成績、各種通知にアクセスしやすい教育環境が整備されている。
- ・2023 年度から 2025 年度にかけて、総合病院情報システム Chiba7 の導入・安定運用、診療系端末の増設・再配置、メモリ増設、未使用端末の引き上げ等により、電子カルテ利用環境の改善している。
- ・電子処方箋機能、電子カルテ情報共有サービス、診療予約システム、診療文書作成支援等の導入・改善により、診療現場における医療 DX が進められている。
- ・2025 年度 FD では、医学教育における生成 AI の活用や、院内業務への生成 AI の取り入れ方に関する研修が行われている。

【今後の計画】

- ・病院情報システム端末の増設、再配置、更新、メモリ増設等を適宜検討し、学生が診療録を記載するための環境を維持・改善することを検討する。
- ・診療系端末の利用状況を継続的に確認し、必要性の高い部署へ再配置するなど、端末資源の有効活用を進める。
- ・附属病院の病院情報システムについては、Chiba7 の安定運用を継続するとともに、次期総合病院情報システム Chiba8 や医療 DX 関連機能の導入・改善状況を踏まえ、臨床実習における教育環境との整合性を確認する。
- ・生成 AI を含む新たな情報通信技術について、教育上の有用性と患者情報保護・研究倫理・医療情報システム安全管理の両立を図りながら、体制とルール作りを検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q6. 3-1 2021 年度病院情報システム推進委員会議事要旨

資料 Q6. 3-2 2022 年度病院情報システム推進委員会議事要旨

資料 Q6. 3-3 2023 年度病院情報システム推進委員会議事要旨

資料 Q6. 3-4 2024 年度病院情報システム推進委員会議事要旨

資料 B6. 3-7 2025 年度病院情報システム推進委員会議事要旨

資料 B3. 1-6 2025 年度部局 FD 実施報告書

資料 Q2. 4-2 2025 年度シラバス（臨床実習シラバス）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス (電子シラバス参照)

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

6. 4 医学研究と学識

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・学生はスカラーシッププログラム（ベーシック、アプライド、アドバンスト）で研究室に配属されている。各配属先では、基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学等に関する研究を経験する。分子生物学的・組織解剖学的・生理学的・情報解析学的等のアプローチから何らかの研究体験を組み込むよう配慮されている。このような研究室配属システムにより、医学研究と学識が融合される教育体制となっている。
- ・各学生は研究室に配属され、講義の入っていない時間帯を利用して、研究に参加している。研究成果については、学生が学内で主催する発表会「ちば Basic & Clinical Research Conference (BCRC)」、他大学と合同で開催する発表会、一般の国内外の学会で発表を行い、論文発表を行う学生もいる。優秀な発表をした学生には千葉医学会奨励賞が授与され、学長表彰を受ける学生もいる。さらに、学生は基礎医学ゼミ、イノベーション医学、トランスレーション先端治療学に全員が参加して調査・発表を行い、スカラーシップ配属教室での深い思考のみならず、広い視野での研究意義を考察する機会を経験している。

【今後の計画】

- ・スカラーシッププログラムのさらなる改善のために、学生アンケートおよびヒアリングを行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 B6. 4-1 スカラーシッププログラム（6 年一貫研究医養成プログラム）（千葉大学医学部 HP）
<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/scholarship/>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・スカラーシップ・ベーシックにより、早い時期から研究に触れる機会が学生に与えられていることは評価できる。
- ・2015 年度から、優秀な研究を行った学生とその指導教員への表彰制度を設け、それぞれのモチベーションを高めるようにしている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・スカラーシップ・ベーシックにより、科学的理論や方法を理解するとともに、早い時期から研究に触れ、リサーチマインドを涵養する機会を学生に与えている。
- ・ちば Basic & Clinical Research Conference (BCRC) で優秀な発表をした学生に千葉医学会奨励賞を授与するなど、優秀な研究を行った学生とその指導教員への表彰制度を設け、それぞれのモチベーションを高めるようにしている。
- ・研究時間の確保について、5～6 年次の臨床実習期間中に、各自の研究等の活動に充てられるアスパイア・プロジェクトを実施している。2024 年度に臨床実習を開始する学生から、臨床実習のカリキュラム改編にともなってアスパイア・プロジェクト期間を 8 週（4 週×2）から 12 週（3 週×4）に拡充した。

【今後の計画】

- ・今後も海外での活動を含めたアスパイア・プロジェクトを推進する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B6. 4-1 スカラーシッププログラム（6 年一貫研究医養成プログラム）（千葉大学医学部 HP）<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/scholarship/>

資料 Q4. 4-2 第 19 回ちば Basic & Clinical Research Conference

6. 5 教育専門家

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・医学教育研究室には医学教育のみならず教育学の専門家が在籍し、カリキュラムの開発、教育技法、および評価方法の開発に利用されていることは評価できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・部局内で医学教育研究室の連絡先は公開され、必要に応じて教育に関して相談できるようになっている。
- ・医学教育研究室を中心に医学教育に対するファカルティ・ディベロップメント (FD) (医学教育リトリート、アテンディング FD、授業・試験担当教員用 FD など) を毎年実施している。2025 年度は 67 回の FD を実施した。

【今後の計画】

- ・医学教育リトリート等で、学内外からの教育専門家による教育能力向上のための FD を継続的に実施する。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q3. 2-4 2021 年度医学教育研究室年次報告書

資料 Q3. 2-5 2022 年度医学教育研究室年次報告書

資料 Q3. 2-6 2023 年度医学教育研究室年次報告書

資料 Q3. 2-7 2024 年度医学教育研究室年次報告書

資料 Q2. 1-2 2025 年度医学教育研究室年次報告書

資料 B6. 5-6 2021 年度部局 FD 実施報告書

資料 B6. 5-7 2022 年度部局 FD 実施報告書

資料 B6. 5-8 2023 年度部局 FD 実施報告書

資料 B6. 5-9 2024 年度部局 FD 実施報告書

資料 B3. 1-6 2025 年度部局 FD 実施報告書

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・学内の教育専門家が、日本医学教育学会、Association for Medical Education in Europe (AMEE) などの学術集会に積極的かつ継続的に参加し、発表・討議を行っている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・医学教育研究室員や教育専任教員を中心に、日本医学教育学会、Association for Medical Education in Europe (AMEE) 等の国内・国際学術集会に積極的かつ継続

的に参加し、発表・討議を行っている。

- ・医学教育研究室員や教育専任教員が医学教育に関する研究を行い、学会や論文で成果を発表している。

【今後の計画】

- ・今後も医学教育に関する研究を継続し、その成果を学会や論文で発表するとともに、学内の教育活動の改善に活用する。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q6. 5-1 医学教育研究室 HP「研究について」

<https://www.m.chiba-u.jp/class/mededu/education/res.html>

資料 Q2. 1-2 2025 年度医学教育室年次報告書

6. 6 教育の交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・イリノイ大学、トーマス・ジェファーソン大学、インジェ大学、天津中医薬大学などと交換留学を行っている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・医学英語教育カリキュラムや留学プログラムを充実させ、「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」を推進している。医学教育研究室に国際交流部門を設け、留学プログラムの作成・運営、学生の募集、渡航支援などを行っている。学生留学報告会を開催、また留学報告書を作成し、留学した学生の体験や感想を、教員、学生に周知している。さらに、海外の大学から千葉大学医学部・医学部附属病院への見学実習生や交換留学生を受け入れている。
- ・地域で活躍する医療人材養成として、東邦大学と連携してポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業を推進している。
- ・研究医養成として、東日本研究医養成コンソーシアムを通じ、多くの国内教育機関との間での学生同士の交流を促進している。

【今後の計画】

- ・「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」を推進し、医学教育研究室の国際交流部門を中心に、国外の他協力機関との協力を継続する。

- ・ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業を推進し、東邦大学等との連携を継続する。
- ・東日本研究医養成コンソーシアムへの参加を継続し、多くの国内教育機関との間での学生同士の交流を促進する。
- ・国内外の教員との交流をより活発にし、医学教育の質の向上を図るとともに共同研究を推進する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B6. 6-1 各留学先との交流協定

- ・イリノイ大学（米国）
- ・トーマス・ジェファーソン大学（米国）
- ・仁済（インジェ）大学（韓国）
- ・レスター大学（英国）
- ・シャリテ医科大学（ドイツ）

資料 B2. 6-1 「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」

資料 Q2. 1-2 2025 年度医学教育研究室年次報告書

資料 B6. 6-4 2025 年度派遣・受入人数一覧表

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・全員留学を目標に「亥鼻地区 ENGINE 推進 WG」を設置し、教職員や学生の国内外の交流を促進すべく検討を行っている。

改善のため示唆

- ・国際的な交流に限らず、より多くの国内教育機関との間でも学生や教員の交流を進めることが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・亥鼻地区 ENGINE 推進 WG を医学部・薬学部・看護学部（学士課程）、医学薬学府・看護学研究科（修士・博士課程）の留学担当教員を構成員として設置し、医学教育研究室長が主査を務めている。国内外における教職員や学生の国際交流を促進すべく検討を行っている。
- ・研究医養成を目的とした東日本単位での日本基礎研究医養成コンソーシアムで、十数大学の学生の研究交流、教員の研究医養成カリキュラムの情報を共有している。

【今後の計画】

- ・各部局担当者及び亥鼻地区 ENGINE 推進 WG が連携して、卒前・卒後教育における国内外の教育機関との交流を促進する。
- ・東日本研究医養成コンソーシアムを通じ、さらに多くの国内教育機関との間で研究する学生同士の交流、および研究医を養成する教育カリキュラムについての情報共有を図る。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q4. 4-1 2025 年度東日本研究医養成コンソーシアム

資料 Q6. 6-2 2025 年度千葉大学亥鼻地区の全員留学の支援に係る活動報告

7. 教育プログラム評価

- ・ 2023 年度から自己点検・評価委員会が医学教育分野別評価基準への対応の進捗状況を毎年計画的に評価している。
- ・ 2025 年度に医学部の全ての基幹教員を構成員とする基幹教員カリキュラム評価部会を設置した。
- ・ 地域枠学生や研究医枠学生を含め、本学部卒業生の卒業後のキャリアに関する調査解析を検討することが今後の課題である。
- ・ 基礎／普遍カリキュラム部会や臨床カリキュラム部会の構成員として、学生に付与すべき議決権について決定し、規程の整備を行うことが今後の課題である。

7. 1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 6 年間全体のカリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタし、評価する組織を学部として早急に定め、規程を定めて活動を開始すべきである。
- ・ 学修成果の達成にかかるデータを、体系的にカリキュラムと主な構成要素、学生の進歩の視点で解析し、教育上の課題を特定すべきである。
- ・ 特定された課題をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・ 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022 に盛り込まれた「自

己点検および評価のための Institutional Research (IR) 部門の整備」に基づき、医学教育研究室に教育評価部門 (IR 部門) を設置し、学生による授業評価アンケート、卒業時アンケート、卒業時学修アウトカム (卒業時到達目標) の達成に向けたマイルストーン評価 (段階的評価)、教員アンケート、wbt (web-based test) 等の結果を定期的・系統的に収集・分析している。普遍教育科目は国際未来教育基幹高等教育センターが授業評価アンケートを実施し、データの提供を受けている。以上のデータは、学部学務委員会、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会を介してカリキュラムに反映させている。また、医学教育研究室教育評価部門 (IR 部門) には千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センター調査・分析部門 (IR 部門) の教員も 1 名兼務しており、卒後教育との連携も図られている。

- ・2023 年度より、医学教育の改善状況を客観的に把握するために、学部学務委員会、自己点検・評価委員会による IR 解析データならびに学内の客観的データの確認、討議と自己点検を行っている。自己点検・評価委員会は、医学教育分野別評価基準への対応の進捗状況を毎年計画的に評価している。また、医学部専門教育科目の GPCA (Grade Point Class Average) スコアおよび成績評価分布の点検を行い、最終的に各会議体で承認された成績判定に偏りはないか、「秀」や「不可」判定の学生が多い場合は到達目標や評価法の設定は適切であるか、などといった観点から点検が行われている。
- ・2025 年度より学部学務委員会のもとに基幹教員カリキュラム評価部会が設置され、医学部の全ての基幹教員が構成員となり、個々の教員がカリキュラム全体を理解し、改善に向けて提言ができる体制が整備されている。

【今後の計画】

- ・医学教育研究室に設置した教育評価部門 (IR 部門) を中心に、普遍教育を含めた 6 年間全体の学生による授業評価アンケート、卒業時アンケート、卒業時学修アウトカム (卒業時到達目標) の達成に向けたマイルストーン評価 (段階的評価)、教員アンケート、wbt (web-based test) 等の結果を定期的・系統的に収集・分析する。
- ・医学教育の改善状況を客観的に把握するために、学部学務委員会などの学務系の委員会組織だけではなく、自己点検・評価委員会による IR 解析データならびに学内の客観的データの確認、討議と自己点検を継続する。その結果を、学部学務委員会、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会を介してカリキュラムに反映させる。
- ・2025 年度から設置された基幹教員カリキュラム評価部会による 6 年間全体のカリキュラム評価を 2026 年度以降毎年実施する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B7. 1-1 医学教育研究室 HP (教育評価・IR)

<https://www.m.chiba-u.jp/class/mededu/evaluation/index.html>

資料 B7. 1-2 千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センターHP

<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/chibauniv-resident/>

資料 B2. 1-1 医学部 医学科カリキュラム・ツリー

資料 B2. 7-3 千葉大学大学院医学研究院・医学部委員会規程

資料 B7. 1-5 2025 年度授業評価アンケート結果(医 T1-T6 普遍) -学籍番号除く

資料 B7. 1-6 医学部専門教育科目 2025 年度 GPCA 集計結果一覧表

資料 B2. 5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

資料 Q3. 2-11 2022 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 Q3. 2-17 2022 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B7. 1-10 医学教育研究室教職員ミーティング（2023 年 1 月 13 日開催）議事録

資料 B7. 1-11 2025 年度学部学務委員会議事要旨

資料 B7. 1-12 2025 年度自己点検・評価委員会議事概要

資料 B2. 7-3 千葉大学大学院医学研究院・医学部委員会規程

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2025 年 4 月 1 日現在）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・6 年間全体のカリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタし、評価する組織を学部として確立し、教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果と社会的責任について包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・卒業時学修アウトカム（卒業時到達目標）の達成に向けたマイルストーン評価（段階的評価）の確立を目指し、2023 年度から、卒業時学修アウトカムの達成度に関する自己評価アンケートを、卒業時のみならず全学年で実施するように対象者を拡大した。普遍教育科目は国際未来教育基幹高等教育センターが授業評価アンケートを実施し、データの提供を受けている。
- ・2025 年度に、学部学務委員会のもとに基幹教員カリキュラム評価部会が設置され、医学部の全ての基幹教員を同部会の構成員として 6 年間全体のカリキュラム評価を実施する体制が整備された。

- ・医学教育研究室では、教育評価部門（IR 部門）を設置し、卒業時学修アウトカムの達成に向けた全学年でのマイルストーン評価（段階的評価）を定期的にモニタし、普遍教育科目を含む 6 年間全体の学修アウトカムの到達度に関する情報を収集している。
- ・自己点検・評価委員会では、IR 解析データ（GPCA スコアおよび成績評価分布の点検）ならびに学内の客観的データの確認と討議による自己点検を行っている。

【今後の計画】

- ・医学教育研究室に設置した教育評価部門（IR 部門）を中心に、今後も卒業時学修アウトカムの達成に向け、普遍教育も含めて卒業時のみならず全学年でのマイルストーン評価（段階的評価）を施行し、臨床実習開始時などの各学修段階における到達度の評価、モニタリングを継続する。その評価をもとに学務系の委員会組織を介してカリキュラムの改善を行う。
 - ・自己点検・評価委員会では、IR 解析データ（GPCA スコアおよび成績評価分布の点検）ならびに学内の客観的データの確認と討議による自己点検を継続する。
 - ・2025 年度から学部学務委員会のもとに設置された基幹教員カリキュラム評価部会において、2026 年度から 6 年間全体のカリキュラム評価を実施予定である。
 - ・社会的責任として、2020 年度から地域枠入試を導入し地域枠学生に対して「地域医療学」、また、入学後に募集する研究医枠学生に対して「スカラシップ・アドバンスト」および「イノベティブ先端治療学・アドバンスト」を開講しており、この評価として、卒業後のキャリアに関する調査解析を検討する。
 - ・地域枠学生を対象に、入試時の成績と在学中の成績の相関解析などの IR 活動を継続するとともに、教育カリキュラムの定着度などについて引き続き分析する。
- 2024 年度から「地域医療学」は地域枠学生のみならず、一般枠を含めた全学生に必修化しており、今後も地域医療の観点からプログラム評価と改善を継続して行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q7. 1-1 2023 年度千葉大学医学部卒業時学生調査ほか集計結果抜粋（コンピテンシー達成度の自己評価調査結果）

資料 B7. 1-5 2025 年度授業評価アンケート結果（医 T1-T6 普遍）-学籍番号除く

資料 B7. 1-6 医学部専門教育科目 2024 年度 GPCA 集計結果一覧表

資料 Q7. 1-4 2024 年 5 月 30 日 第 12 回 Inje-Chiba Joint Seminar

資料 B7. 1-12 2025 年度自己点検・評価委員会議事要旨

資料 Q7. 1-6 アウトカムインタビュー記録

資料 B2. 7-3 千葉大学大学院医学研究院・医学部委員会規程

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2025 年 4 月 1 日現在）

資料 Q7. 1-9 入試要項（地域枠 学校推薦型入試の資料）

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・「普遍教育」を含めた6年間のプログラム評価に対する学生や教員からのフィードバックを系統的に収集し、分析・対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・普遍教育科目は国際未来教育基幹高等教育センターが授業評価アンケートを実施している。当該結果について、令和7年度も自己点検・評価委員会、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会で継続的に報告し、さらに学生や教員からの意見を聴取している。
 - ・「普遍教育」に関しては、普遍教育運営部会への担当教員（学部学務委員長）の参加、年1回の普遍教育担当部署と医学部長を含む学務関連教員との意見交換会を行っている。改善点があれば学内の基礎／普遍カリキュラム部会等で対応する。
 - ・普遍教育科目を含む6年間の授業評価アンケートの結果の入手・分析を継続している。
 - ・医学教育研究室教育評価部門が収集・分析したデータを自己点検・評価委員会が評価する方針を確立している。具体的には、基礎／普遍カリキュラム部会および臨床カリキュラム部会に結果が報告される前の段階で、自己点検・評価委員会においても、前年度の授業評価アンケートを点検する。これにより自己点検・評価委員会の点検結果とともに、両部会へ集計結果がフィードバックされる。
- ・基幹教員カリキュラム評価部会を学部学務委員会のもとに設置した。これにより医学部の全ての基幹教員を同部会の構成員としてプログラム評価を実施するとともに、カリキュラムの改善についての意見を収集するための教員向けアンケートを実施できるようになっている。

【今後の計画】

- ・普遍教育科目を含む6年間の授業評価アンケートについて、引き続き、結果の入手・分析を進める。加えて各委員会を通して授業評価アンケートの結果・分析に対する学生・教員からのフィードバックを収集し、プログラム改善に活かす。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022
資料 B7. 2-2 2025 年度全学教育センター普遍教育運営部会議事要旨
資料 B7. 2-3 2025 年度授業評価アンケート集計結果
資料 B2. 7-2 2025 年度学生と部局長との懇談会次第
資料 B7. 2-5 2025 年度学生と部局長との懇談会〔部局の意見〕提出様式
資料 B7. 2-6 学部・大学院教育委員会（2022 年 12 月 20 日開催）議事要旨
資料 B7. 2-7 学部・大学院教育委員会（2022 年 12 月 20 日開催）報告資料 2-1
資料 B2. 7-1 2025 年度臨床カリキュラム部会議事要旨
資料 B7. 2-9 千葉大学における教育 IR の基本的考え方
資料 B2. 7-3 千葉大学大学院医学研究院・医学部委員会規程

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・学生や教員からのフィードバックを充実させ、教育プログラム開発につなげることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・2023 年度第 6 回臨床カリキュラム部会で、共用試験公的化後初の 2023 年度臨床実習前 OSCE の結果がフィードバックされ、以後、運営体制の改善や臨床入門の内容強化等を行っている。従前まで臨床入門のシラバスは詳細なものが作られていなかったが、現在は、千葉大学 Web シラバス上で臨床入門のシラバスを実習項目別に閲覧でき、評価方法等も含め、透明性が確保されるようになっている。
- ・「質の高い臨床教育・研究の確保事業」プロジェクトの一環で 2023 年度に医行為実施状況調査を医学部 4～5 年生に実施して、様々な医行為をどの程度、臨床実習中に経験しているのかを調査した。この結果、推奨されてはいるが医学生が実施できていない項目が多数あることが明らかとなり、本事業のホームページ上に「千葉大学医学部の学生が実施できる医行為の基準一覧」を掲載し、周知に努めた。

【今後の計画】

- ・医学教育研究室教育評価部門が収集・分析したデータを自己点検・評価委員会や学部学務委員会を介し教育プログラム開発につなげていく。
- ・「質の高い臨床教育・研究の確保事業」プロジェクトで実施した医行為実施状況の調査結果等をふまえて、今後の臨床実習等のカリキュラムの充実を検討する。

- ・2023 年度から教員向けのカリキュラムに関するアンケートを定期的実施しており、基幹教員カリキュラム評価部会にて今後も継続して評価を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 B2. 1-1 医学部 医学科カリキュラム・ツリー
- 資料 Q1. 2-2 2025 年度医学教育リトリート報告書
- 資料 B7. 1-11 2025 年度学部学務委員会議事要旨
- 資料 Q2. 3-2 2025 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨
- 資料 Q7. 2-5 2023 年度臨床入門全体会議議事要旨
- 資料 Q7. 2-6 2023 年 8 月 25 日臨床実習緊急講義・ワークショップ開催資料
- 資料 Q7. 2-7 2024 年 3 月 29 日医学教育教職員ミーティング議事録
- 資料 Q7. 2-8 2023 年度医行為実施状況調査結果
- 資料 Q7. 2-9 2023 年度実施臨床実習認知度アンケート結果（患者さん対象）
- 資料 Q7. 2-10 2023-2024 年度質の高い臨床教育・研究の確保事業事業報告書

7. 3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・使命と学修成果の達成やカリキュラムを包括的に評価するため、学生と卒業生の実績を系統的に収集・分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・2022 年度に改訂し、2024 年度以後の入学生に適用している卒業時の学修アウトカムには、2022 年 6 月に本学卒業生（臨床研修医）に実施したインタビュー結果を反映している。
- ・毎年、卒業時のアウトカム達成度調査と進路調査を実施・情報収集している。
- ・卒業後のキャリアに関して、卒後臨床研修病院をどのように選択したか、将来的に学位取得や千葉大学医学部附属病院への入局を考えているか、などについて卒業時に調査しており、千葉大学医学部附属病院医師臨床研修管理委員会に報告されている。

【今後の計画】

- ・医学教育研究室や附属病院総合医療教育研修センターにおいて、卒業後のキャリア

(専門医取得、学位取得など)に関する IR データの収集方法を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B1. 4-5 2025 年度医学教育リトリート実施要領

資料 B7. 3-2 2023 年度卒後臨床研修に関する調査(学部卒業見込者対象) 報告書

資料 B7. 3-3 2025 年度医師臨床研修管理委員会議事要旨

資料 Q7. 1-1 2023 年度千葉大学医学部卒業時学生調査ほか集計結果抜粋(コンピテンシー達成度の自己評価調査結果)

資料 B7. 3-5 2025 年度卒業後の進路先・連絡先調査回答者名簿

資料 B7. 3-6 2025 年度研修医マッチング結果一覧表(医師臨床研修マッチング協議会作成)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・様々な視点から学生と卒業生の実績を系統的に収集・分析し、その結果を責任ある委員会へフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・医学教育研究室において毎年学生向けに授業評価アンケートを実施し、各講義担当者へフィードバックしている。また、授業評価アンケートの集計結果については基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会において毎年、報告されている。
- ・国際未来教育基幹高等教育センターが全学規模で新入生の背景や状況を把握するためのアンケート調査を入学時に実施している。本調査では医学部独自の質問項目も設定されており、高校時代に「生物」が得意であったかや家庭の経済状況、家族に医療専門職はいるかなどを幅広く尋ねている。集計結果は全学の教員に共有されており、医学部教員だけでなく、普遍教育科目を担当する教員も閲覧できるようになっている。
- ・本学では、卒業生・修了生の意見を把握し、その分析結果に基づいて教育・研究の体制や環境の改善を行うための基礎資料とすることを目的として、全学規模で「千葉大学卒業生・修了生アンケート」を実施している。集計結果は医学部教員だけでなく、全学の教員が閲覧できるようになっている。
- ・学生カウンセリングについて、成績不振学生等については面談を実施しており、そ

の結果は学務・学生支援部会において報告されている。

【今後の計画】

- ・医学部及び医学部附属病院の IR 部門が様々な観点から学生及び卒業生の動向や実績を分析し、学部学務委員会や自己点検・評価委員会へフィードバックしていく。
- ・高等教育センターなどの全学部門からの入学時アンケート調査の解析結果を学生の学修成果（アウトカム）のモニタリング及び達成に活用する。
- ・全学規模で実施される「千葉大学卒業生・修了生アンケート」が実施された際に、当該調査の内容を検討するとともに、調査結果を分析する。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q2. 3-2 2025 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 7-1 2025 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 Q7. 3-3 2025 年度「千葉大学入学時アンケート調査 2025」集計結果

資料 Q4. 3-3 2025 年度学務・学生支援部会議事要旨

資料 Q7. 3-5 千葉大学 卒業生・修了生アンケート(令和 3 年度卒業生対象) 集計結果

資料 B7. 1-11 2025 年度学部学務委員会議事要旨

7. 4 教育の関係者の関与

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・責任と権限を持って教育プログラムを評価する組織に、学生と職員をはじめとしたより多くの教育に関わる主要な構成者を含むべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会には、教員と学生の代表者が構成員として参加しており、多角的な視点から医学教育のカリキュラムについて検討を行っている。
- ・基礎／普遍カリキュラム部会には他学部の教員も構成員として参加している。
- ・2025 年度から薬学部、看護学部など亥鼻キャンパスの医療系学部の教員に臨床カリキュラム部会への参加を要請し、薬学部/医学部附属病院薬剤部より教員が参加している。

- ・基礎／普遍カリキュラム部会や臨床カリキュラム部会では、学生の代表者は、成績評価や不正行為などに関する議題には参加できない。

【今後の計画】

- ・基礎／普遍カリキュラム部会や臨床カリキュラム部会の構成員として、学生に付与すべき議決権について検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B4. 4-1 2025 年度基礎／普遍カリキュラム部会委員名簿

資料 B4. 4-2 2025 年度臨床カリキュラム部会委員名簿

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・教育プログラムの評価結果を患者代表や地域医療の代表者など、より広い範囲の教育関係者に周知し、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・千葉大学では医学部附属病院に総合医療教育研修センター、患者支援部を設置し、また千葉県地域連携の会の開催を通じ、医療、介護、福祉、行政等の関係者と、地域の抱える課題や必要な対策を議論し、より望ましい医療提供体制の構築のため、教育プログラムを展開することを目指している。
- ・大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」ならびに「質の高い臨床教育・研究の確保事業」において、2025 年度に外部評価委員会による評価を受けた。

【今後の計画】

- ・大学院医学研究院に設置している千葉県寄附講座地域医療教育学講座に所属する地域病院アテンディング（地域病院と本学を兼務）やその関係者から、学生や卒業生の評価ならびにカリキュラムについてフィードバックを受ける。
- ・教育プログラムの評価結果についても、住民代表も含めた千葉県の地域医療に関する広い範囲の関係者に周知し、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを受ける。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q7. 4-1 千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センター名簿（HP）

<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/chibauniv-resident/about/attending.html>

資料 Q7. 4-2 2025 年度「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」事業成果報告書

資料 Q7. 4-3 「質の高い臨床教育・研究の確保事業」外部評価委員会評価票集計結果

資料 Q7. 4-4 第 19 回千葉県地域連携の会（チラシ）

資料 Q7. 4-5 学修成果（アウトカム）改訂の手順

8. 統轄および管理運営

- 学部学務委員会及び自己点検・評価委員会それぞれの規程作成を継続し、前者には医学部教育活動に関する総括を行うことを、後者には医学部教育活動の評価や医学部のカリキュラム等の自己点検等について明記する。
- 2025 年度から臨床カリキュラム部会に薬学部及び看護学部教員が委員として参加している。

8. 1 統轄

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- 学長のガバナンスが強化され、強いリーダーシップが発揮されることにより、インフラの新設や整備が迅速に進められていることは評価できる。

改善のための助言

- 医学部における教育活動に関する委員会を整備し、その役割と権限を明文化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- 医学部には常置委員会として学部学務委員会が設置されており、医学部の基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会、学務・学生支援部会、期間教員カリキュラム評価部会、学生部会を統括している。
- 学部学務委員会及び自己点検・評価委員会それぞれの規程作成を継続・議論しており、加えて学部入試委員会の規程作成にも着手している。
- 医学部の教育活動に関する委員会の役割（審議事項）は委員会規程内に明記されている。

【今後の計画】

- ・医学部における教育活動に関する委員会独自の規程を作成し、役割と権限を明文化する。具体的には、学部学務委員会、自己点検・評価委員会、学部入試委員会それぞれの規程作成を完了する。学部学務委員会規程には医学部教育活動に関する総括を行うことを、自己点検・評価委員会規程には医学部教育活動の評価や医学部のカリキュラム等の自己点検・評価を行うこと等について明記する。
- ・教育活動に必要な課題の明確化と、それぞれの課題に対する改善活動による PDCA サイクルを所掌委員会との協力の下で継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 7-3 千葉大学大学院医学研究院・医学部委員会規程

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2025 年 4 月 1 日現在）

資料 B8. 1-3 医学教育分野別評価進捗状況一覧（2026 年 3 月 31 日現在）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・医学部における教育活動に関する委員会組織を設置し、主な教育の関係者、その他の教育の関係者の意見を反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・学部学務委員会が医学部の基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会、学務・学生支援部会、期間教員カリキュラム評価部会、学生部会を統括し、それぞれの意見を反映している。
- ・基礎／普遍カリキュラム部会には広い範囲の教育の関係者として他の部局の教員（普遍教育担当）が構成員として参加している。
- ・基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会には、研究院長が必要と認める者として、学生の代表者が構成員として参加している。
- ・臨床カリキュラム部会に薬学部および看護学部教員が委員として参加している。
- ・医学部ホームページの運用およびセキュリティ向上を目的に、CMS である concrete5 の導入を行い、総務第一係、医学部学務係によるホームページの随時更新が可能となり、教授会等の議事録を随時公開するなど、より透明性が確保されている。

【今後の計画】

- ・医学部における教育活動に関する委員会組織へ参加している他の部局の教員や学

生代表者と今後も活発な意見交換を行い、必要であればその他の教育の関係者のさらなる参加を引き続き検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2025 年 4 月 1 日現在）

資料 B2. 7-3 千葉大学大学院医学研究院・医学部委員会規程

資料 Q2. 3-2 2025 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 7-1 2025 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B7. 1-11 2025 年度学部学務委員会議事要旨

資料 Q8. 1-6 公開情報（千葉大学医学部 HP）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/about/disclosure/>

資料 Q8. 1-7 2025 年度医学研究院教授会・医学部教授会議事概要
（臨時教授会を含む）

8. 2 教学における執行部

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ 2022 年に作成されたグランドデザイン将来構想を実現すべく組織の改変や整備が行われていることは評価できる。
- ・ 学長の強いリーダーシップの結果、全員留学を目指した「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」プログラム、革新医療創生 CHIBA 卓越大学院、未来医療教育研究機構の創設などの新しい取り組みがなされていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・ グランドデザイン将来構想 2022 に基づき、大学院医学研究院の教育体制の再構築として機動的な執行部体制の確立を目指すことを提言しており、月に数回の執行部会を継続的に開催している。
- ・ 学外有識者の大学院委員会参加体制の素案づくりを執行部および所掌事務とで行っている。

【今後の計画】

- ・ グランドデザイン将来構想 2022 に基づき、またその改訂を見据え、執行部について、運営に必要な課題や担当任務・所掌内容、責任範囲を規程に明文化することで、

日常的業務を適正かつ効率よく運営できる執行部体制を構築する。

- ・ グランドデザイン将来構想の構築や改訂の際など必要に応じて、学外有識者の助言を受けることのできる体制を確立することで、職務の効率化と継続性を考慮しつつ、多角的視点を確保した大学院運営を目指す。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

資料 B8. 1-3 医学分野別教育評価進捗状況一覧（2026 年 3 月 31 日現在）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・ 職位別に重み付けによる評価である教員業績評価制度を導入することにより、毎年職務内容と成果の評価が行われ、執行部構成員を含め、各自改善を行っている。
- ・ 医学教育リトリートによって、医学部の使命と学修成果（アウトカム）についての自己評価が行われ、教育成果が明確化してきている。

【今後の計画】

- ・ 教員業績評価制度による定期的な職務内容と成果の評価を執行部構成員も対象として今後も継続し、各自改善をはかりつつ、必要に応じて職位別の重み付けなど制度の最適化を検討する。
- ・ 医学部の使命と学修成果（アウトカム）についての自己評価を定期的に行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q8. 2-1 教員業績評価制度に関する規程資料

- ・ 国立大学法人千葉大学教員業績評価規程
- ・ 国立大学法人千葉大学教員業績評価実施要項
- ・ 教員業績評価制度の概要
- ・ 評価分野・評価項目・評価項目の詳細・評価基準（教授、准教授・講師、助教）

資料 Q1. 2-2 2025 年度医学教育リトリート報告書

資料 B8. 1-3 新規医学教育分野別評価進捗状況一覧（2026 年 3 月 31 日現在）

8. 3 教育予算と資源配分

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・教育関係予算は、学部長、副研究院長、副学部長より構成される執行部が検討し、教授会が承認している。

改善のための助言

- ・教育関係予算の計上と分配についてのプロセスを明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・医学教育研究室長（医学教育学教授）を副医学部長とし、執行部の構成員としたことにより、カリキュラムを遂行するための教育関係予算や必要な資源の配分がしやすくなり、また、今後の教育ニーズに迅速かつ戦略的に対応できる体制となっている。
- ・現在の主要授業科目 44 科目中、基幹教員が担当している科目は 43 科目であり、担当率は 97.7%であり、非常勤講師は 0 名である。
- ・教育関係予算分配のプロセスを教授会に報告し承認を得ている。

【今後の計画】

- ・カリキュラムの遂行に必要な資源を計上し、教育上の要請に沿って教育資源を適切に分配するよう努め、所掌組織と自己点検・評価委員会で PDCA サイクルを回すことで継続する。
- ・教育関係予算の計上と分配についてのプロセスを引き続き明確にしていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B8. 3-1 2025 年度医学研究院執行部関係会議一覧

資料 B2. 1-2 2025 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

資料 B8. 3-3 大学院医学研究院・医学部附属病院教員配置表（※部外秘）

資料 B8. 1-3 医学教育分野別評価進捗状況一覧（2026 年 3 月 31 日現在）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・医学教育研究室長（医学教育学教授）を副医学部長とし、執行部の構成員としたことにより、医学の発展と社会の健康上の要請に基づいた資源配分や教育資源配分の適切な自己決定について審議、履行しやすくなっている。
- ・医学教育研究室による教育サポートを充実するために必要な資源配分の配慮を行う体制を構築している。
- ・大学院医学研究院に千葉県寄附講座として地域医療教育学講座を設置し、千葉県などの地域社会からのニーズを教育活動に反映させている。

【今後の計画】

- ・医学教育学ならびに地域医療教育学講座、すなわち医学教育研究室を拡充するために資源配分を行う。
- ・引き続き、今後も変革していく医学の発展と社会のニーズに迅速に対応していくための仕組みを検討していく。
- ・2022 年度に文部科学省の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に採択され、「地域志向型医療人材養成プログラム」を令和 10 年度まで継続予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 B8. 3-1 2025 年度医学研究院執行部関係会議一覧

資料 Q8. 3-2 「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業推進委員会」所見

資料 Q7. 4-2 2025 年度「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」事業成果報告書

8. 4 事務と運営

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・千葉大学の事務部の中に、亥鼻地区の医療系学部やセンターを統括する事務部が整備され、カリキュラム編成や入試、学生支援などが確実に実行されている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・2019年7月の事務部再編成以後、亥鼻地区4部局を各課が統括して管理・運営する体制となっている。医学部は抽出される様々な課題を解決するために委員会を整備し、医学教育全体の課題や複数の領域にまたがる課題を相互に意識して、計画的かつ継続的に課題解決を図っている。
- ・教育プログラムと関連活動を支援するために、学部教育・学生支援に係る管理・運営組織及びその支援事務組織が形成され、副課長2名（学部学務担当1名、大学院学務担当1名）、医学部学務係（係長以下7名）、学生支援係（係長以下3名）、大学院係（係長以下7名）が適切な役割分担の下で組織的な連携体制が確保され、確実に実行されている。医学部のミッションである「人類の健康と福祉に貢献するとともに次世代を担う有能な医療人・研究者を育成する」を達成するため、教育プログラムと関連活動を支援するための組織と人員を適切に配置している。

【今後の計画】

- ・亥鼻地区の医療系学部やセンターを統括する事務部によって、カリキュラム編成や入試、学生支援などが確実に実行されていることを定期的に検証していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B8. 4-1 千葉大学事務組織図

資料 B8. 4-2 亥鼻地区事務部業務分担表

資料 B8. 4-3 亥鼻地区事務部座席表

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・千葉大学では事務職員についての評価制度が確立している。また、職員研修制度の整備や中期目標・中期計画に係る点検・評価の実施など、医学部では管理・運営の質保証のための制度が整備・履行されている。
- ・事務職員には、国立大学法人千葉大学事務職員等人事評価実施規程及び国立大学法人千葉大学事務職員等人事評価実施要項に基づく人事評価制度が定められている。

さらに、課長級職員、副課長及び専門員（副課長級職員）については、部下職員による上司の指導等に関する評価も実施されている。管理・運営能力の質向上に役立つ職員研修制度（階層別研修、能力開発研修、その他研修）が多数整備されている。

- ・2022年度から国立大学法人は第4期中期目標・中期計画の期間となり、本学の中期目標・中期計画の中にも教育の質の保証や業務の効率化・合理化は重要課題となっており、医学部は含め大学全体での点検・評価が実施されている。
- ・大学に監事及び監査室を配置し、管理運営の質保証のための定期的な監査プログラム（2種類）が実施されている。1種は業務活動が法令ならびに本学の方針、計画、制度及び諸規程に基づいて適正かつ効率的に行われているかについて行う業務監査であり、もう1種は本学の取引における会計処理に関する会計監査である。

【今後の計画】

- ・将来的な改善については、「千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想2022（2022年7月1日）」に基づく、教育研究組織と支援組織の抜本的な機構改革に沿った管理運営の質保証のための制度の作成を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q8.4-1 国立大学法人千葉大学事務職員等人事評価実施規程

資料 Q8.4-2 国立大学法人千葉大学事務職員等人事評価実施要項

資料 Q8.4-3 2025年度千葉大学職員研修等実施計画

資料 Q8.4-4 第4期中期目標・中期計画

資料 Q8.4-5 第4期中期目標・中期計画・年度計画一覧表

資料 B2.5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想2022

資料 Q8.4-7 次世代対応型医療人育成と「治療学」拠点創成のための亥鼻キャンパス高機能化構想

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・東千葉メディカルセンターへの医師派遣や地域枠入学など、地域医療に貢献していることは評価できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・千葉大学医学部附属病院長は国立大学病院長会議長として文部科学省とともに国立大学のあるべき姿を模索しリードしている。
- ・2022 年度より大学院医学研究院に千葉県寄附講座地域医療教育学講座を設置し、地域医療機関に勤務する医師を特任助教あるいは非常勤講師として採用するとともに、同講座の活動において千葉県健康福祉部医療整備課と連携している。
- ・千葉大学医学部附属病院に寄附講座として次世代医療構想センターを設置し、千葉県で起きている医師の地域偏在・診療科偏在などの問題に取り組んでいる。また、大学病院、地域の医療機関、千葉県の3者が中心となった、2025 年以降の地域医療ニーズを見据えた安定した地域の医療提供体制の確立を目指す体制を構築している。
- ・大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に採択され、千葉県及び千葉県内の医療機関、東邦大学医学部と連携している。
- ・医学部附属病院総合医療教育研修センター長（医学教育研究室長兼務）は、東金九十九里地域医療教育研修センター長を務めるとともに、同センターが設置されている東千葉メディカルセンターの理事を務めている。
- ・医学部附属病院長がNPO法人千葉医師研修支援ネットワークの理事長を兼務し、医学部附属病院総合医療教育研修センター長は同法人の常務理事を兼務している。

【今後の計画】

- ・大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の推進において、千葉県および千葉県内の医療機関、東邦大学医学部との連携を継続する。
- ・地域の医療機関、千葉県、NPO法人千葉医師研修支援ネットワーク等との連携を継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B8. 5-1 千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センターHP

<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/NextGeneration/about/about/>

資料 B8. 5-2 千葉県寄附講座「地域医療教育学講座」設置に関する資料（寄附講座等設置申込書）

資料 B8. 5-3 千葉県寄附講座「地域医療教育学講座」の概要

資料 B8. 5-4 大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に関する資料

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・超高齢社会研究センターや予防医学センターなどを通じて、市町村や医師会との協働を構築している。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・21世紀を担う医療者を育成するために、以下の体制をとっている。
(千葉大学医学部附属病院患者支援部)
県内の情報収集、23地区医師会訪問、県医師会との連携
(千葉大学予防医学センター)
疫学的解析、健康・介護・医療関連企業との連携
(千葉大学大学院医学研究院附属超高齢社会研究センター)
情報分析と千葉県および市町村との検討
(千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センター)
将来像に基づく教育プランの策定と実施
これら4部門が学内で連携して学生や医療者の教育を進めている。
- ・東千葉メディカルセンターでは千葉大学と「千葉大学医学部附属病院東金九十九里地域臨床教育センター」の協定を締結している。この千葉大学との連携のもと、臨床研修医や専攻医の教育に取り組んでいる。
- ・千葉県では、医学部学生を対象に、将来、千葉県で働く医師の養成を目的とした修学資金貸付制度を実施している。

【今後の計画】

- ・社会的な視点をもった医療者を育てるために、今後もPDCAサイクルを用いて発展させていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q8. 5-1 東千葉メディカルセンターHP

<https://www.tkmedical.jp/department/>

資料 B4. 1-5 千葉県医師修学資金貸付制度（千葉県 HP）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/iryou/ishi/ishikakuho/kashitsuke.html>

9. 継続的改良

- ・自己点検・評価委員会では、医学教育分野別評価において改善のための助言および示唆をうけた事項について継続して検討し、年次報告書を作成している。また、その作成にあたっては各評価項目を所掌する担当委員会が分担して現状評価と改善計画を策定している。

- ・ 第4期中期目標・中期計画（令和4年度～令和9年度）に記載した事項について毎年自己点検を行ない、教育改善を図っていく。
- ・ 千葉大学大学院医学研究院・医学部では2022年度に公表したグランドデザイン将来構想2022の実現を目指し、また必要な改訂に向けて検討する。

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ 前回受審時に改善点として指摘された教育資源の不足などの問題に関し、医学教育リトリートや各種アンケートによる改善要望に対して迅速な対策がなされている。

改善のための助言

- ・ 教育（プログラム）の教育課程、構造、内容、学修成果／コンピテンシー、学生の評価ならびに学修環境を定期的に見直し、分析して課題を特定して改善する方法を早急に策定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・ 2022年度から第4期中期目標・中期計画（令和9年度まで）に基づいて毎年の自己点検を行い、改善している。千葉大学第4期中期計画を土台とした医学部の中期目標・中期計画に基づき、千葉大学医学部としての社会的責任を果たすため、第4期中期計画を実行している。
- ・ 第4期中期目標・中期計画ならびに大学機関別認証評価については、千葉大学ホームページの「国立大学法人としての公表事項」においてその詳細を公表している。
- ・ 毎年医学教育リトリートを開催し、千葉大学医学部の社会的責任を視野に入れ、医学教育分野別評価基準に基づいた議論を行っており、必要に応じて新たな試みを導入するきっかけとしている。
- ・ 自己点検・評価委員会では、医学教育分野別評価において改善のための助言および示唆をうけた事項について年度計画にもとづいて検討し、年次報告書を作成している。その作成にあたっては各評価項目を所掌する担当委員会に分担して現状評価と改善計画を策定している。可視化された課題については所掌委員会においてPDCAサイクルを回すことでより効率的かつ継続的に改善を図っている。

【今後の計画】

- ・ 自己点検・評価委員会において、医学教育分野別評価において改善のための助言および示唆をうけた事項について継続して検討し、年次報告書を作成する。また、その作成にあたっては各評価項目を所掌する担当委員会が分担して現状評価と改善計画を策定する。可視化された課題については所掌委員会において引き続きPDCA

サイクルを回すことでより効率的かつ継続的に改善を図る。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q1. 2-2 2025 年度医学教育リトリート報告書

資料 Q8. 4-4 第 4 期中期目標・中期計画

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2025 年 4 月 1 日現在）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・評価を実施せず。

改善のための示唆

- ・評価を実施せず。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・第 4 期中期目標・中期計画（令和 4 年度～令和 9 年度）の年度計画に記載した事項について毎年自己点検を行ない、教育改善を図っている。
- ・Institutional research（IR）を医学教育研究室が推進している。また、教育改善について医学教育に関する文献等の治験に基づいた行動計画立案を行っている。
- ・毎年開催する医学教育リトリートにおいて、教育に関するテーマを設定して幅広い教員や学生と意見交換を行っている。
- ・2026 年度地域枠入試（2025 年度実施）より学校推薦型選抜を行い、高校への周知を行っている
- ・医学系総合研究棟（治療学研究棟）のアクティブ・ラーニング・スペース、グループ学習室等を整備して活用している。
- ・教育・研究を適切に管理・運営するために各研究領域の教員間のバランス等の基本方針を千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022 において定め、本構想に基づき教員の募集と選抜を行っている。実際の教員の募集・選抜については、「国立大学法人千葉大学における大学教員の選考に際しての事前協議等の取扱いについて」に基づいて行っている。

【今後の計画】

- ・第 4 期中期目標・中期計画（令和 4 年度～令和 9 年度）に記載した事項について毎年自己点検を行ない、教育改善を図っていく。PDCA サイクルを設定し、年度毎に実行する。
- ・自己点検・評価委員会を定期的に行い、医学教育分野別認証評価に照らし合わせ

て本学の医学教育(カリキュラムモデルと教育方法、評価方法など)の評価を行う。

- ・基礎医学、臨床医学及び社会医学の進歩、人口動態や集団の健康／疾患特性、社会経済および文化的環境の変化など、社会の変化に関連する主要な教育関連テーマの中から、毎年開催する医学教育リトリートのテーマを取り上げ、改善に向けて意見交換を行う。
- ・千葉大学大学院医学研究院・医学部では 2022 年度に公表したグランドデザイン将来構想 2022 の実現を目指し、必要な改訂に向けて検討する。
- ・全学の教員人事調整委員会において、「第 4 期中期目標期間における教員人事計画」に基づき検討を行い、グローバルプロミナント研究基幹、国際学術研究院及び医学研究院(玄鼻高機能化構想)などに教員の重点配置を行っている。今後も教員人事調整委員会において、限られた採用枠の中、全学的な視点から、効果的な重点再配置を促進していく。
- ・医学部医学教育研究室や医学部附属病院総合医療教育研修センターの IR 部門を拡充し、教育の教育課程、構造、内容、学修成果／コンピテンシー、学生の評価ならびに学修環境について定期的に分析して課題を特定していく体制を構築し、課題の発見と対応に寄与する。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q8.4-4 第 4 期中期目標・中期計画

資料 Q1.2-2 2025 年度医学教育リトリート報告書

資料 Q9-3 2025 年度進級判定資料

資料 B7.2-3 2025 年度授業評価アンケート集計結果

資料 Q2.2-2 コンピテンシー達成度の自己評価調査結果(医療系 IR 友の会第 8 回実践会報告資料「本学の各学年における卒業時コンピテンシーの到達度に関する横断的調査」)

資料 B2.5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

資料 B4.1-1 千葉大学年度計画「入学者の受け入れ方針」の検証

資料 Q9-8 国立大学法人千葉大学における大学教員の選考に際しての事前協議等の取扱いについて

資料 Q9-9 国立大学法人千葉大学における大学教員の選考に関する規程

資料 Q9-10 経歴調書(雛形)

資料 B8.1-3 医学教育分野別評価進捗状況一覧(2026 年 3 月 31 日現在)

資料 B7.1-12 2025 年度自己点検・評価委員会議事概要